

出石藩

御用部屋日記

嘉永

二年

六月

出石町公民館蔵

嘉永元年戊申年

御用部屋

日記

六月小出用舎

大清

運通海境

少年喜
兩相見
宿子言
宿子言
宿子言
宿子言
宿子言
宿子言
宿子言
宿子言

十日

十日

十日

秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦
秋不苦

本國
本國

西
松丹

朔日使略

一 例刊出仕

一 冲兒身極百以高以極故其級表無以

一 柱其深以表國自人其一一

一 日國政令

一 國政令

梁姓

中用

因格

一 今朝 許故人所 許故人所 許故人所 許故人所

中 中 中 中

一 許故人所 許故人所 許故人所 許故人所

中 中 中 中

一 許故人所 許故人所 許故人所 許故人所

中 中 中 中

一 許故人所 許故人所 許故人所 許故人所

中 中 中 中

六月十七日

十七日

廿四日

許故人所

許故人所

廿八日

香川

一町書月

六月十日

廿七日

徳信社

十八日

利平

十九日

年々

十九日

智徳院説書

一以用入達

遠東後是年、王臣、其外有少多、其貴久皆也、
其年十一月十日、海東、其後、其後、其後、
中、其後、其後、其後、其後、

石酒

代武

上酒

代武

中酒

代武

下酒

代武

高瀬、海東、其後、其後、其後、

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, starting with a large initial letter.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in cursive script, continuing the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the document.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text, possibly a signature or a specific name.

敬啟者本行在東京
物產部備有各種
高麗正參 鹿茸 燕窩
中藥材 均為上等
貨品 歡迎各界
人士 垂詢 洽
商 為荷

東京 丸の内區 丸の内

丸の内區 丸の内

加納政太郎 謹啟
昭和十一年
十一月

丸の内區 丸の内
丸の内區 丸の内
丸の内區 丸の内

丸の内區 丸の内

敬啟者本行在東京
物產部備有各種
高麗正參 鹿茸 燕窩
中藥材 均為上等
貨品 歡迎各界
人士 垂詢 洽
商 為荷

敬啟者本行在東京
物產部備有各種
高麗正參 鹿茸 燕窩
中藥材 均為上等
貨品 歡迎各界
人士 垂詢 洽
商 為荷

丸の内區 丸の内

敬啟者本行在東京
物產部備有各種
高麗正參 鹿茸 燕窩
中藥材 均為上等
貨品 歡迎各界
人士 垂詢 洽
商 為荷

二日

休自

一 涉

一 涉

一 涉

一 涉

一 涉

一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉

一 涉

一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉

一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉
一 涉

二日

一休日

弘道院

海鏡寺出御

一山内御遊

弘道院

海鏡寺

書之故亦在延壽寺也
之為法也其母下為之會書
之為書也其母下為之會書

三日

一休日

信恭院御遊

御遊

真相院御遊

天真院御遊

高尾寺

夜分朝 沖代若松御遊

沖代若松御遊

日御出御若松御遊

中夜

長岡若松

一柳若松

二江表之月其心之遠其志之宏
敢採冲奥探奇心機之妙其學之深
其行之高其志之遠其心之誠其學之博

一四日自注

父方伯父久目園備言
少壯東坡野民為父書助後
病氣全生書中計死志信信之
今日事減之其後亦不復言矣

鈴木助壽

磯野次郎

一 乃村之清佐橋之洞井雅樂之
之使翁清佐和 清出之松 清澤之守備

一四用人至

以人少有志
清出之名於六月
其初後

鈴木助壽

一 山之甲秀 清出之友

清九之出宅 城之在四時也 清澤

田井内助助
山本東山田橋無
二南安之助後其書子信言

鈴木助壽

前願之通法 作出言於 法用教包中

信在清助
之村多言

十八日

新刊
中世昌三郎

一 右の如く
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び

一 右の如く
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び

一 右の如く
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び

一 右の如く
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び

一 右の如く
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び
清國及び

在不在文支下 所意有之也 姓之

所留吉年 所左府中 所意有之 所清漢

十之五源 所用之向 所意有之 所何之 所保

山園付之 所法持 所意有之 所省座

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所留吉年 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

所意有之 所法持 所意有之

一 所折帶 所法持 所意有之 所法持 所意有之

所折帶 所法持 所意有之 所法持 所意有之

所折帶 所法持 所意有之 所法持 所意有之

所折帶 所法持 所意有之 所法持 所意有之

所折紙

小林

本五溪山用經風口在公法禮上五年一

涉留事申 涉在府中之意

所意以國有學之法用於祭禮在公法禮上五年一
於春陽之日一同華姑法祀上五年一涉事身於公禮

一左之面之出涉道中較皆勒在法 日長在後
所意以皆於法用於祭禮上

堀幸進

古伎書

井上信
取紙源者

仁井十左衛門

堀新
舟本新

福垣喜藏

小林六造

谷中一富

廣部習助

金澤為助

海島重太郎

河合共市

熊谷河次

一 友之海山用入之友之友

西川 茂木
山地 茂木
山田 茂木
山田 茂木
山田 茂木

山田 茂木
山田 茂木
山田 茂木

真田 未

山田 茂木
山田 茂木
山田 茂木

山田 茂木

一 山田 茂木
山田 茂木
山田 茂木

西村 未

一 山田 茂木
山田 茂木
山田 茂木

十日集卷之四

何刻也

戶通海河因欲中便

姓侯初本出...
澄江...
江...
行...

...

...

...

...

一柳

...

...

...

...

...

...

...

改世道

石室山... 皇朝... 國...

啟源... 濟...

此世...

以制人

國...

啟源... 濟...

右... 且...

此... 皇...

但...

皇...

我...

右...

皇...

六白

一白

五松院

沙骨月身修奉

山依殿

仙秀院

深觀院

如來院

但求善福

古今

所代相

一白

慈母如慈母

月香如氣

松井

廿二日

休日

同日

能海音彦初
子細原中書

金澤家助

一 留書引使新室由本心知
在河原邊

八日

一 休日

一 弘治後
一 律新百也

仁德寺

一 同日

一 弘治元年
一 弘治元年

弘治元年

一 同日

一 弘治元年

高郵陳氏

清風拂拂如金如雪
山色如屏水如練
如畫如詩如畫如詩
如畫如詩如畫如詩

金華

飯後始知此意
如畫如詩如畫如詩
如畫如詩如畫如詩
如畫如詩如畫如詩

金華

九日

一休日

十日

一休日

一奇社

志利帝一運文志利帝一運文志利帝一運文

志利帝一運文

一 物作舟
以通廣心舟

仙石内家

一 江表先月九日出行後表表

致極 冲奥極着以極極極極極極

以列衆之客客客客客客客

二月廿七日

一 仙石播磨守殿以社母大中門前在口
仙石守之書付此夜亥中刻以好合
中本後口古書及中一年

一 右付由極以代客以代客 仙石守書
仙石人々以代客以代客 平尾勇次

一 仙石播磨守殿以社母大中門前在口
仙石守之書付此夜亥中刻以好合
中本後口古書及中一年

一 大書院信房之書付九月九日
仙石守之書付此夜亥中刻以好合
中本後口古書及中一年

一 仙石守之書付此夜亥中刻以好合
中本後口古書及中一年

一 大書院信房之書付九月九日
仙石守之書付此夜亥中刻以好合
中本後口古書及中一年

仙石守書
仙石守書

新刊 日本書紀卷之六

新刊

新刊

新刊 日本書紀

十日晴

一 制訂出仕

一 方之通也其人之志也

高家之志

之志也其人之志也

之志也其人之志也

之志也其人之志也

之志也其人之志也

堀内五尔

一 清江之志

之志也其人之志也

堀内五尔

方之志 清江之志也其人之志也

一 福江之志

之志也其人之志也

之志也其人之志也

之志也其人之志也

堀内五尔

一 姓依之志

之志也其人之志也

之志也其人之志也

中村五尔

一 方之通也其人之志也

仙石藩磨与信少祖由大雲庵在江户

今日一日由教生一云其志也其人之志也

不孝の支那の事

六月十日

仙臺市馬場

山崎中

一 右の通り町百五箇中福居町五箇は、（以下省略）

一 月産金一、向と云ふ有、（以下省略）

福居一箇

右の通り町百五箇中福居町五箇は、（以下省略）

一 福居

仙臺市馬場

右の通り町百五箇中福居町五箇は、（以下省略）

一 仙臺市馬場

一 仙臺市馬場

一 仙臺市馬場

仙臺市馬場の住居中馬場

仙臺市馬場

一 仙臺市馬場

仙臺市馬場の住居中馬場

仙臺市馬場の住居中馬場

仙臺市馬場

仙臺市馬場の住居中馬場

仙臺市馬場

一 月刊雑誌

此雑誌は月刊であるが、
その内容は

之を以て南支那の文化

彼多志島

志田友尔

一 友へ贈る詩人の手紙

志田友尔

右は志田友尔の詩人の手紙、
その内容は

右は志田友尔の詩人の手紙、
その内容は

但右は志田友尔の詩人の手紙、
その内容は

六月六日

一 友へ贈る詩人の手紙

志田友尔の詩人の手紙、
その内容は

但志田友尔
出版

田中友尔

但志田友尔の詩人の手紙、
その内容は

一 十九日誌

十九日誌の内容は、
その内容は

十二日 晴 偶 云

一 体 日

一 日 中 暮 云 散 霞 多 云 亦 少 中 物 一 爲
以 中 人 心 甚 苦 云 云 毋 波 浪 二 日 綠 水 區 中
古 亦 亦 亦 亦 亦

十三日 雨

一 体 日

一 日 中 暮 云 散 霞 多 云 亦 少 中 物 一 爲

仙 石 在 馬 路
他 石 在 馬 路
皆 同 石 仲

十四日雨

一休日

於三友社

二夜三日

西信法師禮

以新稿料

全武百什

方寸通江

你不方以整下上信以可入

以行稿料亦一信可入信亦信亦信

高平寺の寺量寺印地取

許唐高在右道為無狀法事

言方及信之進方口為句言亦在

許唐高在右道為無狀法事

為半口空

十日 晴

一何利寺社

一許唐高在右道為無狀法事

一横江院後上表右同信目人云以中元

一因信相親御日在表高

一山小姓人

永利帝宅禮會
沙初尾福三也

川用入
金次米尾

本乃相お勤以後十進

當日日出家公地成病身有
痛中が難保中用入と信了候

中村年吉郎

一 此姓の姓
之慶次候に飛騨勤身有

松平仙春身候由據不有言
醫師初介斜廣方と此言有
薩長身遣松平身始運言は候也
外書言有初言と此言有

廣瀬五郎

維家身候在之為難保中
川村謙吉身二男と此言有

中村年吉郎

用言有誠身始運言は候也
外書言有初言と此言有

一 川用入身

世の世に武名身成爲難保
此業に重難に難保候は候也
本在仙春身在 山右前首
仙春身在仙春身在 仙春身在
仙春身在仙春身在 仙春身在

依田海次

西川順元身在仙春身在

香山

榎川年吉郎

一 仙春身

不十九日公为中
月... 此... 中... 也

出... 故... 乃... 第...

一 出... 人... 廷

... 公... 亦... 任... 督... 探... 除... 而... 此... 中... 廷... 也

... 中... 廷... 也

十一日 出... 廷

一 休... 日

一 出... 人... 廷

... 相... 大... 廷... 也

... 田... 中... 廷... 也

十七日 出... 廷

一 休... 日

... 每... 天... 廷... 也

... 大... 廷... 也

... 出... 廷... 也

... 出... 廷... 也

一
私修氣力格別生家
松也一美事在事官職
許廣進道官無在仕

因中若新

一
十九日 晴

一
休日

一
海初子月
以遠惟出傳

一
似石在雲物
似理變為

一
十九日 晴

一
休日

一
許都延新式月
山節

一
子以在

一
廿月分

一
依古即依律備中書
加統中書律律中即
為仕在也方台打以也

一
志記後事
上京後事

廿日 杜晴

一 体日

一 沙后坡瑞梅自... 沙中... 自... 序... 卷...

一 沙... 自... 卷...

如廿一日... 附... 自... 卷... 入... 其... 尔

想... 之... 以... 著... 中... 而... 何... 以... 欲... 也...

有... 之... 卷... 之... 以... 卷... 之...

六月廿日

仙石古馬馬

廿日 杜晴

一 山... 卷...

新... 之... 所... 以... 卷... 之... 法... 卷... 之... 卷... 之...

夫... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之...

也... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之...

廿一日 杜晴

一 体日

沙... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之...

格... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之...

一... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之... 卷... 之...

仙石古馬馬

一 此紙を以て

出雲郡下綿袴村
宝積寺
山之内畑村
東世見寺

石室焼寺一在石室焼寺は古くは石室焼寺に在りて其の
相傳は古くは子佛懸に十信白藏に在りて其の
本所は石室焼寺に在りて其の
今一石室焼寺に在りて其の

一 石室焼寺に在りて其の

蓋すは日蓮宗の寺なり
相傳は古くは子佛懸に十信白藏に在りて其の
本所は石室焼寺に在りて其の
今一石室焼寺に在りて其の

石室焼寺に在りて其の

月次修験の日蓮宗の寺なり
相傳は古くは子佛懸に十信白藏に在りて其の
本所は石室焼寺に在りて其の
今一石室焼寺に在りて其の

石室焼寺
石室焼寺

石室焼寺に在りて其の

石室焼寺

一 四 (五)

以...
...
...

...

...
...

一 五 (五)

...

...

...

...

...

一 董同七...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

11. 12

荒木重雄

右様にお礼の言葉を申し上げます。先日はご挨拶をいただき、誠にありがとうございました。貴社の社長様へお礼の言葉を申し上げます。及ばずお礼を申し上げます。

一 比用人名

當申一年夏に、貴社へお礼の言葉を申し上げます。此度は、お礼の言葉を申し上げます。

一 比用人名
一 比用人名
一 比用人名
一 比用人名

一 比用人名
一 比用人名
一 比用人名
一 比用人名

右四ヶ所のお礼
一 比用人名
一 比用人名

比用人名

一 比用人名
一 比用人名
一 比用人名

比用人名

一 比用人名

比用人名

休三
日

休三
日

一 休日

此是神戶市役所事務
始因是年所出諸派
切心一而
此在府內
府務
子地

休日

休日

休二
日

一 休日

休三
日

一 休日

一 休日

此書の巻末に
鳥羽守大鼓打

心光院

大正日使館

休日

中相院極楽寺
急須寺

清仲若
櫻新造

石分林書

山崎守

書院
急須寺

石分林書
石分林書

石分林書
石分林書

山代友のしる事大書簡の序

是は山代御所の増進書紀云々... 治之印将作是... 毒子七百の多名... 十下り... 女... 世... 延... 之...

有... 中... 毎... 下... 用... 山... 文...

身中... 此... 市... 刻... 有...

六月... 未... 卯... 卯... 卯...

一 右... 卯... 卯... 卯...

卯... 卯... 卯... 卯...

卯... 卯... 卯... 卯...

卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯... 卯...

一、昔年京師...
二、...
三、...
久矣...

六月廿一日

文徵明書

吳門沈氏年
秋八月廿一日
福井社寫

仙居沈氏書
太極圖記
沈氏人書

一、昔年京師...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...

女子日性略

一 何則也

一 何謂也：何謂也？何謂也？

仙舟

一 妾

一 妾在町町...

平尾

有...道中...

但...道中...

一 此...

一 此...

海... 仙...

一 此...

一 此...

孫...

一 此...

六月廿一日 收信 夕方 寄函

一 休日

經家主在右左給與信也
川村 德太郎 二男 主 叔 父

中 德 太郎

新居 德太郎 在 那 右 左 寄 函 也

在 七 日 寄 函 也

一 休日

一 德 太郎 在 右 左 寄 函 也
夕 方 寄 函

女八口也

一 休日

一 送彼後秋府
市席

仙居志
仙居志

一 山月入庭

一 舟舟移居常山法常柳野風聲暮色
山月入庭

一 江上素書月青思遠夜月半白
列女卷八
素書

一 秋梅 冲風梅香中散
秋梅 冲風梅香中散

但亦川者乃... 冲風梅香中散

一 冲風梅香中散

廿九日 初十日 星期三

一 休日

一 以用人生

柳河出馬尾浦之海井控管部之引海處
以用人生

以 許國府

有 許國府

以 許國府

以 許國府

秋井牧師

長岡村

一 在 海 口 中 心 領 事 官 官 署

田 安 一 位 牧 師 自 前 任 牧 師 之

公 務 局 領 事 官 署

法 律 修 習 生 修 習 生 日 本 法 律 學 校 在 此 日

官 署 領 事 官 署

作 出 出 海 領 事 官 署 領 事 官 署

領 事 官 署

六 月 十 日

公 務 局

以 許 國 府

此乃... (vertical calligraphy)

他... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

五十四

許法新身依家
此字新法新身依家

一 財在財在

財在財在財在財在

一 財在財在財在財在

一 財在財在財在財在

一 財在財在財在財在

一 財在財在財在財在

出石藩

御用部屋日記

嘉永

二年

七月

出石町公民館蔵

嘉永元年申年

沙彌

日記

長園

七月六

沙用者
阿那
山橋子方
山橋地以
山橋地以
山橋地以
元方西之方
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以

長岡作
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以
山橋地以

火消

加着四那
是橋落吉

喧
痛痛

河建志
是橋落吉

七月初日 崇正閣

一 例刊出

一 沖野文様方の書目法後後書目録表等
後院院標に在るに
一 恩月巻
一 恩月巻
一 恩月巻

一 恩月巻

一 恩月巻

一 恩月巻
一 恩月巻

一 今月 沖野文様方の書目法後後書目録表等
一 恩月巻

一 先月中 一 恩月巻
一 恩月巻

一 先月中 一 恩月巻
一 恩月巻

一 恩月巻
一 恩月巻
一 恩月巻

一 恩月巻

一 恩月巻

一 恩月巻

一 恩月巻

一 四本の巻

十六日

高石塚修築

十七日

心光院報告

十八日

地蔵修築

十九日

山火修築

一 奇蹟の巻

當月たて通

浄土祖師の御遺徳を慕ひて勤行を怠らざることを
志す

六日

浄土祖師

十日

大徳院

十六日

浄土祖師

二十日

天真院

二十六日

天相院

三十日

大徳院

心光院

地蔵修築

徳王寺

昌念寺

高徳寺

本三寺

左祥寺

中三書

一 有書有下... 絶つ仕屋

一 右書有下... 絶つ仕屋

一 古... 絶つ仕屋

一 絶つ仕屋

一 絶つ仕屋

一 絶つ仕屋

中三書

一 絶つ仕屋

絶つ仕屋

中三書

一 絶つ仕屋

絶つ仕屋

一斗十日九日正午時入公事申年八

二斗十日九日正午時入公事申年八

三斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

右一斗十日九日正午時入公事申年八

七月九日

長岡友伸

一斗十日九日正午時入公事申年八

右一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

七月九日

長岡友伸

一斗十日九日正午時入公事申年八

一斗十日九日正午時入公事申年八

二日 晴

一日 晴

丁亥年十月廿三日
松山縣志卷之四
許國書局代印
力任編纂者為松山縣志局

松山縣志

三日 晴

一日 晴

丁亥年十月廿四日
松山縣志卷之五
松山縣志局代印
力任編纂者為松山縣志局

一 傳白 性

傳白

信春院探書

自相院探書

信春院探書

去自院探書

信春院探書

信書

傳白 仙書

信書

右分朝書

一 信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

一 信春院探書

一 信春院探書

信春院探書

信春院探書

信春院探書

Handwritten signature or name in cursive script.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten signature or name in cursive script.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a note or address.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a note or address.

Handwritten text in cursive script, possibly a note or address.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, possibly a note or address.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten characters, possibly a name or title.

六日

一休日

冲虚观梅方

冲虚观梅方

居士寺

居士寺

莲华院梅方

如水院梅方

冲虚观

冲虚观梅方

日行有云

残秋逸语

右今秋 冲虚观梅方

一 卷之四 自月十日

善日 作古梅之友

鸣也

明七日

一 卷之四 自月十日

卷之四 自月十日

七月六日

卷之四

七月六日

卷之四 自月十日

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史

一 東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

東洋の歴史を研究するに必要にして

一 昔有又中時格也侍中

一 沖以東梅言の是也言の是也 以後成之 以後成格
右因格中之也

一 一回の為格の事
七多し及後の中也

沙出流
沙用人
因格也

一 以中書院之間 國司の事 人 格 間 由 來
以 人 以 爲 所 止 並 格 也 事 言 事 光 回 也 同

至 上 女 以 後 中 之 沙 用 者 湯

湯 日 三 日 湯 湯 湯 湯

但 必 後 也 見 小 言 以 後 格 也 事 也

一 大書院の事 格の事 爲の事 沙用者 沙用者 沙用者
沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者
沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者 沙用者

一 町 也 也

町 也 也

年累不
 計履毛竟海...
 每年在...
 行...
 在...
 不...
 市...
 在...
 計...
 列...
 計...
 孔...

家

村...
 年...
 征...
 乃...
 之...

崇
 崇
 崇
 崇
 崇
 崇
 崇

崇
 崇
 崇

八日 晴

一日

大無院極

法光院極

沙龍院極

宗後寺

石了相相動り後中

一日 晴

法光院極

法光院極

中書

石了相

九日 晴

一日 晴

一日 晴

善正 作書極

教生 以十日不

有、沙、中、書、極、書、

七月九日

長岡

中書

石了相相動り後中

一 有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

一 田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

一 有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

一 有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

一 有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

有入道 田舎の 田舎の 田舎の 田舎の

一 有... (vertical text)

一 口用... (vertical text)

中... (small vertical text)

張... (vertical text)

古... (small vertical text)

張... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

一 有... (vertical text)

有... (vertical text)

一 有... (vertical text)

有... (small vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

有... (vertical text)

一 有... (vertical text)

有... (vertical text)

中庸の書名

一 中庸の書名

中庸
張其
張其

有子曰孝之為難也久矣
自及於百姓而後
此言可貴也
昔者君子之過也
所與及也
而小人與及也
小人與及也
而君子不與及也

子曰君子之德也
博學之審問之慎思之
明辨之篤行之有弗學
學之弗能學之不能
知而弗能知而弗能
知而弗能知而弗能
知而弗能知而弗能

子曰君子之德也
博學之審問之慎思之
明辨之篤行之有弗學
學之弗能學之不能
知而弗能知而弗能
知而弗能知而弗能
知而弗能知而弗能

以後年事

或所

為

所

中人

中

少

可

皇

之

中

有と母の事と云ふは其の意

七年

長國有伴

以國甘中

有公事を以て其の事を知るは其の意

一 有と母の事と云ふは其の意

之の事を知るは其の意

大板

六

一 限之故

右年未だ猶も有るは其の意を知るは其の意
其の意を知るは其の意を知るは其の意
其の意を知るは其の意を知るは其の意
今日 其の意を知るは其の意を知るは其の意
師の意を知るは其の意を知るは其の意

十日收帳

份刻事仕

長安

常具

信

仙不

右今

至及平... 勢... 終...

花

十一日 收帳

份刻事仕

山中

先... 自... 山...

山

山...

橋井

右... 月... 次... 海... 秋... 仕... 份... 世... 何... 世... 云... 能... 亦... 亦... 亦...

金華聖記

佛

名號者

而原

淨土

多難危之為友

也

以

之

金華聖記林村伊德定名奉名號者續之

其數以續一併有以信者其數亦不

可勝數也

聖記

上村

後

之信者其數

不可勝數

其數亦不

可勝數也

其數亦不

十二日 收帳

一 倒列仕仕

一 以發行之仕

大元元新物

力高十日世中世出欠

清列礼人分列系世新物世出欠

檢之世世世世世世

一 以列仕仕

全高世世世世世世世世世世

申七年大核世見

一 以列仕仕世世

八百九十九

由

世世世世世世世世

世世世世世

世世世

一 以列仕仕世世

世世世

世世

世世世世世世世

申七年
以入帳

未三月廿七日
以入帳

申七年
以入帳

世世

世世

一 米久三三三三

長年米七石

申二月八日七月

長年

一 米久三三三三

八石七石

申二月八日七月

長年

七石三斗六升

申年

一 米久三三三三

以用大

長年米三三三三
申年
減し

長年米三三三三
申年
減し

長年米三三三三

申年
減し

一 以用人

長年

申年
減し

長年米三三三三
申年
減し

一 以用人

長年

申年
減し

石志重能此年亦應去年十月終身及後即結
對合有信一或或或或或或或或或或或或或或
多向一或或或有世而即不 結身之信
中道有信之世中道有信之世中道有信之世

十三日 父方公大面

一 体日

一 江戶嘉嘉月 智智智智智智智智智智智
殿極極極

江戶嘉嘉月 智智智智智智智智智智智
殿極極極
智智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智

一 智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智
智智智智智智智智智智智智智智智智智

引續 行動之終 行則必有終 但大元正統以來

一上及於此者 終其心之 則其心之 則其心之

也則其心之 則其心之

一 國之政及於天下 則其心之 則其心之

則其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

其心之 則其心之

其心之 則其心之

其心之 則其心之

其心之 則其心之

其心之 則其心之

其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

乃其心之 則其心之

乃其心之 則其心之

乃其心之 則其心之

一 乃其心之 則其心之

乃其心之 則其心之

右側より左側へ通る道に
高松家跡あり古蹟あり
今抱き懐かしき懐かしき
此の道は昔より通る道なり

柳橋

十四日 晴

休日

至中
三十分

河津
北右右馬場

右側より左側へ通る道

十六日 晴

休日

古肥

古病刺の古蹟あり古蹟あり
此の道は昔より通る道なり
今抱き懐かしき懐かしき
此の道は昔より通る道なり

古肥

私儀

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

許原真其... 許原真其... 許原真其...

古祀... 古祀... 古祀...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

仙居... 仙居... 仙居...

昔變文經其後
以中經道在天
後名經其後年
此言其後年
今言其後年
其後年

但在此處

言其後年
後名經其後年
其後年

但在此處

右言其後年

十六日 晴

一日

系法
清安之...
在物...
假...
假...
假...

仙石...
假...
假...
假...

七日 晴

一日

大意...
假...

在...
假...

假...
假...
假...

系法

清安...
假...

假...

假...
假...
假...

此年秋七月...
少...
...
...
...

廣雅

海

十

一 体口

十九日 体口 体口

（体口 体口 体口）
体口 体口

一 体口

廿一日 体口 体口

（体口 体口）
体口 体口

体口 体口
体口 体口

（体口 体口 体口）
体口 体口 体口
体口 体口 体口
体口 体口 体口
体口 体口 体口

一 体口

体口 体口 体口 体口 体口

大(口) 取給録

例別出仕

年下ノ取給録ノ神ノ信取也
再信取 信取ノ事ノ人ノ取給也

山崎信次

年下ノ取給録ノ神ノ信取也
再信取 信取ノ事ノ人ノ取給也

西平忠

年下ノ取給録ノ神ノ信取也

山崎信次

年下ノ取給録ノ神ノ信取也
再信取 信取ノ事ノ人ノ取給也

山崎信次

山崎信次

年下ノ取給録ノ神ノ信取也
再信取 信取ノ事ノ人ノ取給也

山崎信次

年下ノ取給録ノ神ノ信取也
再信取 信取ノ事ノ人ノ取給也

山崎信次

一 山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道

一 山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

一 山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道
山崎入道

山崎入道

一 山崎入道

定住の事は海原の事
中島大正の内海新島
右の事の中島の内
中島花油の事

福成寺

一町長の事

後海島と北島

後海島

女二口

一休

心好

此の事は海原の事
中島大正の内海新島
右の事の中島の内
中島花油の事

金剛寺

一町長の事

以用... 年... 海

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

女二日 夕暮

一 休日

一 遠征海秋

一 留居

如蒙抄本中... 胎兒... 子... 信... 乃...

一 柳格

女四日 暮

一 休日

一 松尾院梅... 乃...

一 仙石... 津美

一 宮内院梅... 乃...

一 早川...

一 夜分... 津美

一 夜分... 乃...

伴買為
台竹西
為本樸
中枝為
苦地連
引胡才
即升自
升五葉
黃皮交

壽

之是柏
身身
名香知

壽

壽

一以...

...

...

...

...

...

女才子

一 例刻

一 出

手... 此... 中... 因... 由...

永年

一 友

何...

十

今... 在... 亦... 何...

何...

此... 汗... 以...

早... 長...

他... 亦...

此物中百斤，痛刺心骨，其
義愈方是，乃心之有在也
之，此物中百斤，乃心之有在也
之，此物中百斤，乃心之有在也

他者有集
故也送騎

今收在集物，此物中百斤，信
之，此物中百斤，乃心之有在也
一，此物中百斤，乃心之有在也
之，此物中百斤，乃心之有在也

沙中念
沙中念

一 乃 道 也 何 有 於 此 乃 道 也 中 也

此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也

念竹 錫

此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也

休 中 行 錫

此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也

此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也

念 中 行 錫

此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也
此物中百斤，乃心之有在也

國 不 極 人

山繪子以三帝

所免皆不動去御也

全以羊乳
拓植忍食

元方以勳定子以三帝

所免皆不動去御也

波多島島

元方以勳定子以三帝

中村島島

山繪子以三帝

所免皆不動去御也

山野島島
弓削十重
駒井日定

山繪子以三帝

所免皆不動去御也

若以文島

山繪子以三帝

所免皆不動去御也

山繪子以三帝
白井島島

山繪子以三帝

所免皆不動去御也

井上集島

一 友 通 以 用 人 上 心 十 氏

山繪子以三帝
所免皆不動去御也

若田五介

石之道 仁日事

但布一途 賢良の道 仁日事

一 友の道 仁日事

吾竹 誠以人 仁日事 仁日事

仁日事 月書

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 月書

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 月書

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

仁日事 仁日事 仁日事

一 友之向之月日之書
中法

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

口語

呂舟人

口語

呂舟人

口語

口語

私儀枉代奉

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

仰身恩甚上高府格或宜重涉以儀

相商下平亦亦格或宜重涉以儀

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

涉身恩甚上高府格或宜重涉以儀

嘉元元年七月廿六日

御村海老

仙心不馬也

仙心不馬也

仙心不馬也

仙心不馬也

仙心不馬也

江戶幕府 別使 平賀 玄白 涉身 恩甚 上高 府格 或宜 重涉 以儀

野々田

兼 是日...
 但...
 日...
 是日...
 惟子...
 編輯...

右... 下... 夜... 乃... 是... 日... 之... 事...

一日

女六日 性...

一日

女七日 性...

一 眼...
 此...

平井三藏

但...
 一...
 云...

六八日 卷之四

一 体口

一 友之也吾用人之也

何如也 何如也

荒林野舍

一 此小姓之也

此小姓之也 德那候
定有御用之也 德那
候 御用之也 德那
候 御用之也 德那

廣野之側

老翁之也 德那候
御用之也 德那

德那候 御用之也

老翁之也

一 体口

六九日 卷之五

後日

一 休日

一 自由日

廣瀬京前

此の三層次は、
松平信春公の御
醫所、福和科、
三層階建の
中庭あり

但山形に在り

出石藩

御用部屋日記

嘉永

二年

八月

出石町公民館蔵

嘉永元年

沖野

日記

儀野逸野

八月

被録

入朝 昭 甜慧

一 朝拜定府前忠化

一 清兄弟有佳音 上 錦沙後後 高以美 德為

一 陸香院 頂上 因在 因入 高 丁

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

一 山泉白雲

山中自有天然之趣

十日

鹿耳村 田家待宿

十日

入家 亦云

先月十日 宿於湯村溫泉
湯池熱氣 沁人心脾

松本温泉

一 砲術

竹村樓閣
十日

古來有九月十日 砲術試驗

演習 砲術試驗 砲術試驗 砲術試驗

用之 砲術試驗

一 在道本學院之同業 砲術試驗 砲術試驗

九月一日 砲術試驗 砲術試驗

砲術試驗 砲術試驗 砲術試驗

山泉白雲
十日

山泉白雲

十日

山泉白雲

今取此行 砲術試驗 砲術試驗 砲術試驗

敬啟者 作甘公承禮公家之世業其勤其

心 宜也

此後其可也(卷)

今日無事之念(因致)因房在銀十餘元

一 九 道 致 步 月 致 元 也

此後其可也(卷)

此後其可也(卷)

余亦變更

升之修之

梁其家也

今致出所致口致也(卷)

作其心身中法中法中法

此後其可也(卷)

但致其(卷)中法中法中法

引信及

地百及

此代官

年知定

正一國之(卷)中法中法中法

後(卷)中法中法中法

今致其(卷)中法中法中法

作其心身中法中法中法

此後其可也(卷)

但致其(卷)中法中法中法

一 在通國各處中...

口部
材

七年後

公使以 德意志村...

去地極有 救恤...

以國...

公使...

早...

...

...

...

八月...

...

...

...

...

...

...

...

...

二日

休日

法華三經の序

仙石の鳥物

何處へ 何處へ

何處へ 何處へ

荒木の鳥

他 何處へ 何處へ

少くも

母の紐母打由道何處へ

後部子道 書物 何處へ

一 折戻馬

清原の鳥 何處へ

但此の鳥 何處へ 何處へ

少くも

八日

休日

一 早朝 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事 其 日 夜 中 無 事

一 午後 其 日 夜 中 無 事

宋書

宋書

一 府中... 津野...
津野... 津野...
一 津野... 津野...

一 津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

一 津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

一 津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

一 津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

一 津野... 津野...
津野... 津野...
津野... 津野...

一 江戸洋書及山内序の片断

七月十日

山内南

江戸

(伊藤野矢の)

(江戸野矢の)

西郷山内洋書法

山内南

江戸

(伊藤野矢の)

西郷山内洋書法

山内南

山内南

七月十日

山内南

江戸洋書及山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

江戸洋書及山内序の片断

七日午家本

廿九日松平肥後守家本

方以川北警部改葬送致之書也

已將此用控候並致書致松平家本以爲傳書云

折列之取致松平家本

書之切用控候云

急度致書松平家本云此傳書致松平家本

任酒食付取福之州松平家本云此傳書致松平家本

今年之方松平家本云此傳書致松平家本

主役也至松平家本云

七日午

八月廿

松平家本

傳書

一日 快信 辰日

一 天泉院 辰日
信者 辰日 辰日

辰日
辰日

一 本会 辰日

一 辰日

此年 辰日
辰日
辰日

辰日

辰日

一 辰日

辰日

辰日

一 辰日

辰日

辰日

以爲
將原。其久。再。故。經。可
實。嚴。志。志。法。殊。特。特。特
經。特。志。志。志。志。志。志。志。志
別。何。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志

品念年

懷中。志。志。志。志。志。志。志。志

本心年

志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志

江野年

志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志

以野年

志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志
志。志。志。志。志。志。志。志。志

津田年
志。志。志。志。志。志。志。志

海濱... 所... 然... 所... 之...

依田...

一 堂... 仰... 之...

一 友... 通...

啟... 敬...

一 友... 敬...

敬... 友...

一 友... 敬...

一 友... 敬... 友...

敬... 友...

敬... 友... 友...

元方
以爲其子之爲也

其後文在也

引後段

以爲相公

以爲其子之爲也
但月有
昔月有

升之集也

一月九日 魏明元皇帝 崩於西堂 年二十有九 葬於
以爲其子之爲也

一 法苑珠林卷之九 帝 崩於西堂 年二十有九 葬於
以爲其子之爲也 崩於西堂 年二十有九 葬於
崩於西堂 年二十有九 葬於

六日 魏

一 休日

魏明元皇帝
崩於西堂

崩於西堂

但其在 魏明元皇帝 崩於西堂 年二十有九 葬於

一 休日

七日 魏

八日

体自

江及彼海軍の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

江軍兵士一人一人の心大能也

七月廿三日
一、^{七月廿三日} 濟山宅車以中及河經之經書與口
為古名 濟山宅 濟山鏡了時

右記 濟山間道釋... 河田八助
同法 竹月一圓... 一、^廿 濟山宅車以中及河經之經書與口

今秋 無庫極涉安 程原極涉安... 七月廿三日
公邊古法在古海自... 出月有以之... 濟山鏡了時

新新

程原極涉安... 七月廿三日

樓田伊在處及

右記... 濟山鏡了時... 一、^廿 濟山宅車以中及河經之經書與口

萬壽極極

右記... 仁善此後各向... 七月廿三日

新新

山員丹

一 於嘉清之旨法固自全以法入主心下畏法不違法

一 依一之旨法固自全以法入主心下畏法不違法

一 依一之旨法固自全以法入主心下畏法不違法

一 依一之旨法固自全以法入主心下畏法不違法

九月九日

一 体口

今日... 院... 中... 之... 事... 已... 告... 成... 矣... 凡... 有... 疑... 問... 者... 請... 向... 本... 院... 函... 詢... 可... 也... 此... 佈... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日...

... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日...

十日

一 体口

... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日...

... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日...

一 体口

... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日... 宣... 統... 三... 年... 九... 月... 九... 日...

引...
...
...

水...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

田門
有子母
竹村
竹村

人数
人数
人数

人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

人数
人数
人数
人数

天澤也
治海也
治海也
治海也

治海也
治海也

一 治海也

治海也
治海也
治海也

治海也

治海也
治海也
治海也

治海也

一 治海也

治海也
治海也
治海也

治海也

治海也
治海也
治海也

治海也

一 治海也

一

予、少頃、爲、書、信、一、
以、爲、君、之、信、也、
以、爲、君、之、信、也、

此、信、不、復、
以、爲、君、之、信、也、
以、爲、君、之、信、也、

予、少頃、爲、書、信、一、

以、爲、君、之、信、也、

此、信、不、復、
以、爲、君、之、信、也、

予、少頃、爲、書、信、一、

以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

此、信、不、復、
以、爲、君、之、信、也、

予、少頃、爲、書、信、一、
以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

此、信、不、復、
以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

以、爲、君、之、信、也、

此、信、不、復、
以、爲、君、之、信、也、

予、少頃、爲、書、信、一、
以、爲、君、之、信、也、

一 山陰縣南

一 山陰縣南 寺有北岳殿 殿中佛像 乃心藏家
作至村中 寺中 寺間 經劫 延古 川 對曰 寺 亦
切 寺 中 有 佛 像 寺 中 有 佛 像 寺 中 有 佛 像
亦 大 殿 寺 中 有 佛 像 寺 中 有 佛 像 寺 中 有 佛 像
且 觀 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像
為 切 也

一 江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

一 江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

十二月 酉

一 休日

一 江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

江上表 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

八月 酉

秋所逸騎

八月 酉

秋所逸騎 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像 寺 中 佛 像

一石之區同年為之乃為生

後田家書

右大痛五倍今復之紅腫之症甚重且及
清光之能書此書也此公之乃之進部書也

山三子

紅腫也之書也

清光之能書此書也此公之乃之進部書也

山三子

清光之能書此書也此公之乃之進部書也

山三子

清光之能書此書也此公之乃之進部書也

山三子

清光之能書此書也此公之乃之進部書也

山三子

山三子

後田家書

山三子

後田家書

山三子

山三子

山三子

後田家書

一 每日

十一日 晴

以道波海秋
早之云云

一 仙舟

一 仙舟

大川場之仙舟
仙舟之仙舟
仙舟之仙舟

一 大川場之仙舟
仙舟之仙舟
仙舟之仙舟

仙舟之仙舟

一 休日

十四日 晴

十五日 晴

一 例刻出仕

午前九時出勤
午後六時退社
同日出勤

井上 啓

一 夜道出勤

夜道出勤
午後七時出勤
午後十一時退社

八月十日
夜道出勤
午後七時出勤
午後十一時退社

一 國事

一 國事之重要及今日之重要地位之重要

可出此後之進步及今日之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

先年之國事之重要地位之重要

中西舞島

田中作

田中作

田中作

田中作

別紙

湯治お免仕の... 入湯お免仕の...

橋井長茂

一 四月全送

右款方書院月次簿致仕物... 通行... 致仕...

右書院簿

致仕物... 簿

十文

少主人書

原外中

右... 簿

原外中

一 右... 簿

柳町 小町 三橋町

竹音町 北西新町 土町

右... 簿... 簿... 簿...

武蔵町

山崎町

北町

山崎町

北町

山崎町

北町

山崎町

右... 簿... 簿...

八月

破地送務

八月

右... 簿... 簿... 簿...

一 有... 姓...

姓... 姓...

母... 姓...

孫... 姓...

子... 姓...

姓... 姓...

何...

十六日

一 休白

水... 姓...

姓... 姓...

一 簡...

...

板...

五

十七日

一 休日

本院橋本町
江ノ島

右ノ紙相動ノ事

所代者
子川公海

十八日

一 休日

弘原
溝谷町

溝谷町

十九日 晴

一 休日

二 幼生に於ては其の親守り

一 異動

右田康子

右田村出で此村に居る人流本敬亭小出
此村に於ては其の親守り中村人等此其の親守り
内知友長長右仲長長等此其の親守り
左田及右田

人数三拾九人 五教七十八
中村村 集八五五元

一 所記

○ 国木院前
● 寺田右田法之郎
● 寺田 藤久保之郎

▲ 右田門前
▲ 藤久保之郎
▲ 寺田 親如
▲ 藤久保之郎
▲ 松井雄記
▲ 小出信八郎

右表... 及... 及...

右田... 右... 右...

六日

休日

臨海... 江...

仙...

山...

... 山...

小...

... 山...

平...

大門口

一 例別在

事未由是致有五年

百道由是致有五年

致由是致有五年

後從高帝中世為首

長國地部

田中修志

一 山月付在

中道是故更成太極山古昔是後
進者方不年是是山月付在

井上修志

一 山月付在

咸月十九日

山中修志

右松尾田細と志一山月付在

山月付在

一 田在

余久山月付在

山月付在

山月付在

一 田在

昔山月付在

嵩中年後見前途

子分

下町分

山之冲
岩艾知

世之世若以中夜而極也
少壯之時以在湯浴任之知也
山聲作九丁出自有如修湯也
二早下入湯由仕而台取書也

一 今通江 似有方山園人云其後

法法作事申

町字也

行用也

子分

瀑化

兼竹 跡

波多 跡

西上 跡

野崎 跡

免定 跡

長岡 一百

以代 友

岩溪 跡

少居 跡

水升 跡

免定 跡

出廣 跡

以代 友

柱松 跡

右月... 田中作造

抄他... 田中作造

...

...

...

...

...

...

...

...

九月通地美遠事終一之全

山美行 美居之通
山下 遠地 終事

終事 終事
市次

一 九月十日 終事 終事 終事

信田 美居 終事 終事
山下 遠地 終事 終事
山下 遠地 終事 終事

信田 美居
山下 遠地

九月二十日 終事 終事 終事 終事

一 休日

山下 遠地 終事 終事
山下 遠地 終事 終事

山下 遠地

一 九月廿五日

山下 遠地 終事 終事
山下 遠地 終事 終事

山下 遠地

山下 遠地 終事 終事

山下 遠地 終事 終事

山下 遠地

女之日 孫國

一 傳日

法區版
清於自如

仙商象

女之日 性

一 傳日

重類區版

忍月好

空後奇以出似也

仙商象

女之日 性

許用空名似也
可對本位任任似也

但此象也

女之日 性
女之日 性
女之日 性
女之日 性

村山製物

河田八郎

物産部
同中
河田八郎

一 河田八郎

河田八郎

河田八郎

七月
一 九
河田八郎

一 河田八郎

河田八郎

河田八郎

一 河田八郎

河田八郎

河田八郎

一 河田八郎

河田八郎

河田八郎

河田八郎

河田八郎

一 噴古河田谷魚太出... 春舟... 人...
... 河田... 谷...
... 河田... 谷...

天直... 信... 津...

新... 九...

右 津代... 但今... 津...

一 七... 津... 河... 津...

田村... 右... 津...

右 方... 山...

右 津... 津... 津...

一 例列山丘
其口其口

一 片通
其村名

高秋山坂中
江州

山小姓但治序

江州

但石江江州
山州

右
山
村
名
其
口
其
口
其
口
其
口

一 山
其
口
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

山
其
口
其
口
其
口

徳小島と徳一

山形県
山形県
山形県

山形県
山形県

山形県

山形県

山形県

山形県

山形県

但 山形県
山形県
山形県

一 山形県
山形県

山形県

山形県

山形県

山形県

山形県
山形県

山形県

山形県

以明人

新承... 同... 人...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 同 行 列

昔者... 行... 列...

...

一

...

...

...

一 年 任 事 列

...

...

二 日 本

...

...

...

...

一 行 通 向

...

...

...

...

...

...

一 以人述

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

乃道 乃道 乃道 乃道 乃道

一 幼女以蓮

咸道至庭 十月廿

小柳 香信

右鴨之文集此物之志部公仕之月取信也

一 右之白紙筒之文也 幼女以蓮

一 右之白紙筒之文也 幼女以蓮

一 右之白紙筒之文也 幼女以蓮

梓庭 志行

右之白紙筒之文也 幼女以蓮

一 幼女以蓮

一 幼女 九月廿

廿六日

一休日

所立於二男兼
湯臣兼頭也
休矣

小出兼家

廿七日

一休日

御書初見之
少中少少音初之
有能任事者以
其心乃已別

兼家

林日

少方为子府

行求尔清子念尔也 尔心尔国 尔心尔民

以道服 辨秋

少方清地以國為國

病身之氣也 形自也

此心之氣也 右此心也

存心之氣也

此心之氣也 此心之氣也

此心之氣也 此心之氣也

一也

存心之氣也 此心之氣也

存心之氣也 此心之氣也

存心之氣也 此心之氣也

存心之氣也 此心之氣也

少方清地

也

也

存心敬序

存心敬序

一四回

此書乃清初刻本，其卷之五至卷之六，其文字多有脫誤，其卷之七至卷之八，其文字多有增補，其卷之九至卷之十，其文字多有刪改，其卷之十一至卷之十二，其文字多有重刻，其卷之十三至卷之十四，其文字多有校對，其卷之十五至卷之十六，其文字多有校對，其卷之十七至卷之十八，其文字多有校對，其卷之十九至卷之二十，其文字多有校對。

竹月樓名為月夜中

中村

竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中

竹月樓

一休

廿九日

一休

竹月樓名為月夜中

竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中
竹月樓名為月夜中

右

右

(此部は...)

波

山

本

須

一

...

一

...

...

山
後
佐

...

...

...

...

出石藩

御用部屋日記

嘉永

一

年

九

月

出石町公民館蔵

嘉永元年

御用部屋

日記

九月六

法年苦
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

早川庄
 共
 同
 德
 年
 同
 德
 年
 同
 德
 年
 同
 德
 年

大清

加蓋

廣東

江蘇

朔日 快晴

一 別刻書法

一 許某書法百卷書法圖說卷之二

一 田口用筆法

田口用筆法
田口用筆法

一 田口用筆法

一 田口用筆法

一 田口用筆法

一 田口用筆法

一 田口用筆法

神樂山

田口用筆法

法苑珠林卷之
十卷 律儀部
法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林
卷之十

法苑珠林卷之
十卷 律儀部
法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林
卷之十

法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林
卷之十

法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林
卷之十

法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林
卷之十

法苑珠林卷之
十卷 律儀部

法苑珠林卷之
十卷 律儀部

九月分

一 神樂水清門前沙羅堂
許國公

波多勢
少食三味
山陰青
山陰青
山陰青
山陰青

許國公

一 神樂水清門前沙羅堂

仙居
仙居
仙居
仙居
仙居
仙居
仙居
仙居

一

山中野史

山中人

伴野史

山溪作

平尾山志

同林人

山歌集

山歌集

山歌集

山歌集

山歌集

山中野史

山中野史

山歌

一 雁叙

一 諸師

山歌

山歌

一 振

一 迅

山歌集

一 南條 三行

一 神樂 三行

一 南條 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

一 神樂 三行

新... 在法事... 言... 事...

一 聖恩... 法... 事... 言... 事...

二 法事...

他... 法... 事... 言... 事...

中九月

九日 夜後竟

一 法... 事... 言... 事...

二 法... 事... 言... 事...

三 法... 事... 言... 事...

九月

一 法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

二 法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

法... 事... 言... 事...

草書行草書一編

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集卷之三

山林詩集

蘇東坡詩集

此詩集係蘇東坡詩集

卷之三

蘇東坡詩集

卷之三

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

山林詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

蘇東坡詩集

多向町...
至唐...
中...
...

丹...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

二日信

一休日

沙彌之書或の旨
也希

仙居宛

一月分

沙彌之書或の旨
也希
但云此書有在也

仙居宛

一社社長の書

先任社長の書
沙彌之書或の旨
也希

社長の書

二日 返

一休日

沙彌之書或の旨
也希

長岡宛

沙彌之書或の旨
也希

仙居宛

沙彌之書或の旨
也希

一月分

沙彌之書或の旨
也希
但云此書有在也

仙居宛

四日 晴

一 休日

吾妻院探訪

沖美

仙石右馬助

沖代番右衛門

山内清隆

信濃院探訪

信濃院

坂北遠路

沖代番右衛門

山内清隆

竹村権吉

山内清隆

山内清隆

山内清隆

他方より仲通

山内清隆

山内清隆

山内清隆

江戸身元月立

山内清隆

山内清隆

山内清隆

山内清隆

山内清隆

一 此後...

清中九日... 此後...

...

一 九月... 此後...

一 九月... 此後...

一 九月...

...

...

...

一 九月... 此後...

...

一 九月... 此後...

一 九月... 此後...

...

一、
二、
三、

一、

同
中
出
生

一、
二、
三、

一、
二、
三、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

東國通志卷之九 藝文志 詩 卷之九

五言古詩 卷之九

中

不月

一 例刻出仕

一 應務勤行
生仕分令原由也

孫傳文

一 以級より至

威首 二足

孫傳文

カ右の如く仕舞此の如く一ツツと申す事
其後此の如く申す事申す事申す事
以級自の如く

一 以級より至

カ右の如く仕舞此の如く一ツツと申す事
其後此の如く申す事申す事申す事

孫傳文
行伝村

一 以級より至
其後此の如く申す事申す事申す事
其後此の如く申す事申す事申す事

久和村
孫傳文
其後此の如く申す事

一 以級より至

格高仕上 應務文 朱入七百五日前
六の二夜九の附の如く申す事申す事

光昭院

右の如く申す事申す事申す事
其後此の如く申す事申す事申す事

孫傳文

以設方以用多...
...
...

竹相後台

一 以備...
...

...

七人禁

...

...

...

...

...

...

一 例年...
...

...

...

...

...

...

...

...

一 江...
...

...

...

一 文章
中村

有之通 你乃名聲

一 少中合
首

一 出書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

一 書

今朝花信早

昨夜霜寒入

空庭

心事

何如

秋意

正

常

一

新

作

在

八

一

一

出
改

皆

年

中

香
士

有
少
多
亦
不
可
少
也
其
心
亦
不
可
少
也
其
心
亦
不
可
少
也

一 神素 通河之流 故年依口 因分白進 之流 故所

其流下道 沖代 志 志 志

殿 極

沖 眞 極

無 庫 極

沖 眞 極 志 志 志

志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志

沖 眞 極 志 志 志

奇 社 子 乃 持 護 志 志 志 志 志 志

右 國 乃 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

大 右 院 神 子

沖 眞 極 志 志 志

智 智 院 智 智 院

智 智 院

右 國 乃 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

一 右 相 極 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

神 素 子 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

六

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日

大清宣統元年八月廿一日



卷之三

一 卷之三

一 卷之三
一 卷之三
一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三
一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

一 卷之三

十日

一 休日

仁徳殿

仁徳殿

一 少納言

此下右大臣殿及他官等御座に付
お入り申上り候

此下右大臣殿
お入り申上り候

下等官等御座に付
お入り申上り候

此下右大臣殿
お入り申上り候

右大臣殿

右大臣殿御座に付

御座に付

右大臣殿
お入り申上り候

一 右大臣殿御座に付
御座に付

お入り申上り候

十一日 函

一 何利生

一 山知自生

涉路之子... 山知自生

山知自生

一 山知自生

山知自生... 涉路之子... 山知自生

山知自生

一 山知自生

山知自生... 涉路之子... 山知自生

山知自生

山知自生

山知自生

山知自生

一 山知自生

山知自生... 涉路之子... 山知自生

山知自生

暮年休養後毎歳梅をよお致す何年か
許極然此個許大梅の如き梅は幾度か書
すべし梅の如く一皮の如し

一 月一梅の如く一皮の如し

山月

此れ通月と書く梅の如く梅の如く
月一皮の如く一皮の如し
山川梅の如く一皮の如し
右の如く一皮の如し

九月

右目文

右の如く一皮の如し
一皮の如く一皮の如し

九月

山月

山月

右の如く一皮の如し
一皮の如く一皮の如し

山月

右の如く一皮の如し
一皮の如く一皮の如し

分付由成吉野少人白如殿

十二月兩

一休日

一休日

由成吉野少人白如殿

分付由成吉野少人白如殿

分付由成吉野少人白如殿

分付由成吉野少人白如殿

十一日

一休

以道徳
海新

早川

一廿日

海心
海心曰徳命未妻為解
子如方妻事一途而力
中其也

美津

一廿一日

海家
海家曰徳命未妻為解
國家徳命未妻為解
字書徳命未妻為解
子如方妻事一途而力

長川

一 体口

冲月候者野介
只时仕仕仕仕仕

差是年

冲月候者野介

差是年

冲月候者野介
只时仕仕仕仕仕
只时仕仕仕仕仕

一 体口

冲月候者野介
只时仕仕仕仕仕

差是年

一 体口

冲月候者野介
只时仕仕仕仕仕

差是年

十月廿五日

例刊此止

一 冲兵身存口善共图

一 横空度雁

一 要介

一 谷谷

金

一 反介

一 奔

一 共

持

一 片

一 地

一 中

一 长

反

一 各

一 片

一 肯

一 是

一 以

公

一 官

如石以修一海月
公府家以之
多矣序一海月
公府家以之
任公府家以之
公府家以之

一 公府家

五 公府家

公府家

公府家
公府家

公府家

一 公府家

公府家

公府家

公府家
公府家

一 公府家

公府家

公府家

公府家

公府家

位田隆名氏
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心

位田隆名氏
田中玄馬

一 位田隆名氏

席中
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心

位田隆名氏
田中玄馬

一 位田隆名氏

此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心

位田隆名氏
田中玄馬

此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心

一 位田隆名氏

此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心
此書乃吾身一出生之書
以汝讀之亦當知吾心

位田隆名氏
田中玄馬

一 敬告同志

（上海）
（上海）

（上海）
（上海）

一 四四

（上海）

（上海）

（上海）

（上海）

一 敬告同志

（上海）

（上海）

（上海）

一 敬告同志

（上海）
（上海）

（上海）

一 町子町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 町

一 月 日

今日...
...

位...
...

...

中...
...

...

...

...

...

...

...

...

一 休 日

...

...

...

...

...

一 古月... 何...

一 古月...

夫... 由... 力...

長...

十八日

一 休日

海... 忌... 出...

...

...

十九日

一 休日

...

...

一 忘遊
沂先那多自後下也

荒不致部

一 山月詩

今日秋王以名林
分人分之公讀原

山月詩

一 女口 為之

一 休日

弘道破務海舟
如作

仙有象

一 安樂

右今日之公家
上後之公家
安樂

余身事助
水為事更

廿一日 秋 游 山 記

一 別 出 仕

二月 行 途 中 見 山 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖

不 國 樂

婦 女 歸 田 以 年 為 記 又 記
在 此 之 記 九 麻 村 上 山 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖

友 友 友

婦 女 歸 田 以 年 為 記 又 記
在 此 之 記 九 麻 村 上 山 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖

友 友 友

山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖
山 巖 巖 巖 巖 巖 巖 巖

有兩助令使可任辨令言流作仕等願者
新經の巻末に道
法村法意

口上書

私儀年来奉蒙
御厚恩無加無絶難有仕合等能兩札令使可
仕辨令言流作仕等願者
沙汰候
沖教免成仕候仕願之由
仕出不好奉蒙

沖懇意序包出
仕付難有仕合等能兩札令使可
沖教免成仕候仕願之由
仕出不好奉蒙

嘉永元年申年九月書

法村法意

沖年壽
沖中宛 敬付

門外先達州五夫三自之り廻り候
沖中宛

合候多助
山東堂更

一 讀書路徑

身居其日天之日也

讀書之法書為口中之法書下法書也

口書之身身法之書法也

一 江山姓以在

身居其日天之日也

自由之身身法之書法也

中者身之法書也

一 身社法以在

身居其日天之日也

石洋守

水井玄藏

一 山社法以在

身居其日天之日也

山平村

身居其日天之日也

山平村

身居其日天之日也

身居其日天之日也

身居其日天之日也

山平村

身居其日天之日也

身居其日天之日也

一 町子町迄

瑞龍年

如取陸高者、仕を瑞龍西迄
而取瑞龍東迄、瑞龍之北、北東
仕を瑞龍南迄、瑞龍南迄、
計意也、計行言、瑞龍南迄、瑞龍南迄、
十行、瑞龍南迄

一 取中村会、瑞龍南迄、
一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、
但九月二十日、瑞龍南迄

美加町
瑞龍南迄

一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、
一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、

瑞龍南迄
瑞龍南迄

一 瑞龍南迄

瑞龍南迄

瑞龍南迄
瑞龍南迄

一 瑞龍南迄

瑞龍南迄

中村会

一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、

一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、

一 瑞龍南迄、瑞龍南迄、

瑞龍南迄

瑞龍南迄

瑞龍南迄

一、
二、
三、
四、
五、

六、
七、
八、
九、
十、

十一、
十二、
十三、
十四、
十五、

十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、

二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、

三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、

三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、

一、田村右衛門左衛門
相次左衛門左衛門

右衛門左衛門左衛門左衛門

以右科理上之書多付 許御也

一、宗門出仕御

許具原少左衛門 許御也

少左衛門

出仕書

左衛門

少左衛門

一、宗門 許御也 許御也 許御也 許御也

一、宗門 許御也 許御也 許御也 許御也

許御也

一、先刻書原御 出仕書 出仕書

右衛門左衛門左衛門 許御也

以右科理上之書多付 許御也

一、宗門

許御也

許御也

一、宗門 許御也

共二日 拟卷源題

休月如陰

一 同文陰

全

古於古書院

至

陰

全

全

全

全

全

全

全

有月公

計月

他

多財名
同會 德剛

水原 亨

古於古書院... 乃所... 也

法合

水原 亨
同會 亨
平也 厚 亨
大也 厚 亨

水原 亨

下... 法... 也

一 同會 亨

可... 也
也... 也
也... 也

水原 亨
水原 亨
水原 亨

此係後備沈即秋沙書序

此係沈即秋沙書序

左田也

此係沈即秋沙書序

此係沈即秋沙書序

林田

一 田

妹浪山田

此係沈即秋沙書序

此係沈即秋沙書序

田

一 田

此係沈即秋沙書序

平法

西川

有來本有沈即秋沙書序

女二日書

一 昨日在陰山見新時...

一 同身修...

工度物

右類古書... 乃...

一 夜 村山...

渡能表工度物

渡能

渡能源力

工度物

引引...

梳田...

渡能...

若田...

友面

...

...

...

...

二皮相分

右身之骨門... 此物...

一 門骨结构

...

右物之...

组合

三好...

一

右...

一 一...

...

...

...

...

一 此紙より

田舎地村角力以て官立五輪力有之
河城下之角力建於後世教員也

一 門前名無法

福柱左一節

古本古八日少所教於 沖野田別の事
其中心は貴人正しく

廿四日 相野原

一 休日

一 実相院極楽寺

宗後

右今相院極楽寺

秋意 沖野原

一 上院

一 実相院極楽寺

二男殿

沖野原極楽寺
社合子守方揚場社

沖野原

實相院

中書

右同左

中西

西川

小山

此後皆曰紅毛人等

物統歸陽德村等處

西村等處均有居住

外島各處均有居住

田中夜走

一 田中夜走

德隆村田中夜走

此地有田中夜走

物統歸陽德村等處

西村等處均有居住

外島各處均有居住

田中夜走

一 田中夜走

德隆村田中夜走

此地有田中夜走

田中夜走

一 田中夜走

德隆村田中夜走

此地有田中夜走

田中夜走

田中夜走

德隆村田中夜走

此地有田中夜走

一 田中夜走

山部金生
清水山部金生

山部金生

山部金生

山部金生

山部金生
山部金生
山部金生
山部金生
山部金生

山部金生

山部金生

山部金生

山部金生

山部金生
山部金生
山部金生
山部金生
山部金生

山部金生
山部金生
山部金生
山部金生
山部金生

山部金生

女六、已晴、風

一 休日

休後

清々然と静かに寝て居る。此の静けさは、
心身ともに、世間の煩悩を、一掃して、
清らかなる境地に至る。此の境地こそ、
真の休息也。

一 折板島

廿七日 此の日の為

一 休日

阿部

予、得、仁、者
予、川、舟、遊

大層な大層な、大層な大層な、大層な大層な、
大層な大層な、大層な大層な、大層な大層な、
大層な大層な、大層な大層な、大層な大層な、

一 何列生仕

女八白 明 皇 后

中 國 歷 代 皇 后 列 傳
卷 之 一 何 列 生 仕

河 南 武 寧 縣 人

一 門 弟 居 合

十 日 聖 旨

九 日 聖 旨

中 國 歷 代 皇 后 列 傳

右 列 傳

目 次

九 日 聖 旨

極 松 在 美

九 日 聖 旨

山 地 幼 幼

右 列 傳 中 國 歷 代 皇 后 列 傳 卷 之 一 何 列 生 仕

何 列 生 仕 傳

但 此 皇 后 傳 中 國 歷 代 皇 后 列 傳 卷 之 一 何 列 生 仕 傳

一 何 列 生 仕

何 列 生 仕 傳

右 列 傳 中 國 歷 代 皇 后 列 傳 卷 之 一 何 列 生 仕 傳

何 列 生 仕 傳

露石居

植松岩次郎

河野九郎

右方寄

竹村春彦

富川春彦

藤久根彦

松井雄純

右方寄

瀬戸健也

中村健彦

植松左郎

右方寄 植松春彦

植松左郎

右方の元軍大志の心は花と鳥の心
中村健彦

廿九日 拜出

一 林日在御所之云行以御所出仕

一 藤平法

平海江表

右 於右書院是乃公室乃之長及西室常席
中 海

仕合

河橋武定
伊東教定

田中信節
石中出雲守

坂出常房
小川冬冬子

山石 玄紀
若狭信直

若狭信直

右 於右書院是乃公室乃之長及西室常席
中 海

一 門外無信

西川公進

右游太書院... 乃可也

增田慎之
少林寺所
張助劉君
關口信吉郎
依田武吉郎
西川富太郎
井上重虎
西川八十進

一 西川公進

右... 乃可也

一 乃可也

乃可也... 乃可也

但... 乃可也

右通玄末二月ノ後於又末二月ノ後於
中ノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ

九月廿九日
可川氏流

此同前中

右通玄末二月ノ後於又末二月ノ後於
中ノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ

此同前中

一
休日

以通流ノ族トモノ

取所送給

差次書

以通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ
事トモノ以及通流ノ族トモノ以及通流ノ族トモノ

出石藩

御用部屋日記

嘉永

一

年

十

月

出石町公民館蔵

嘉永元年

御用部屋日記

十月六

少清

少年苦
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

本國樂
本國月

世有...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

唯海流...
...
...

本國樂
本國月

近日

一 例利出仕

一 沂父身極苦 當日涉夜後同聚長是 以中

一 精區院核 右因

一 因法有缺 右因

一 去日江核 右因

一 以用人

一 以善信子 右因

一 今新 沂城 是日 以善 以例 右因

一 家門口 右因

一 先月中 沂城 人 例 增 減 書 卷 一 覽 以 善 以 人 善

一 以 勉 自 甘 苦

一 中 核 批 打 夫 先 月 中 巡 上 紅 系 右 善 成 以 善 以 善

一 善 成 以 善

一 沂 城 中 分 以 善 以 善

一 沂 城 中 分 以 善 以 善

一 中 西 以 善

一 西 川 以 善

一 以 通 以 善 以 善 以 善 以 善

一 善 成 以 善

一 善 成 以 善

一 加 善 以 善

一 善 成 以 善

一 取 通 正 行 自 官 以 後 年 以 用 入 正 命 年 後

查 合
查 年 以 後 年 以 用 入 正 命 年 後
世 俗 年 以 用 入 正 命 年 後

多 田 物 元

右 甲 子 年 之 意 也 仰 付 一 通 有 十 合 五 納 物 元

以 納 物 元

仰 元 年 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

但 一 年 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

依 久 間 在 所

亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元

右 久 矣 後 以 後 年 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元

右 出 生 年 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

一 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元 亦 有 納 物 元

一 凡 一 凡 一 凡

拓清什度... 且... 日

... 也... 也... 也

一 凡 中... 也

... 乎... 也

牧... 也

... 也... 也... 也

... 也... 也... 也

... 也... 也

... 也

一 体日

一 一 表... 也

... 也... 也... 也

... 也... 也

一、
二、
三、
四、

一、
二、
三、
四、

一、
二、
三、
四、

一、
二、
三、
四、

一、
二、
三、
四、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

張子厚

張子厚

一 石部有受符黃白丹日午用白米末為丸
補氣破癆之山鹿白丹一破癆黃白丹

一 治七子五石丸

田福女
川不特用

一 治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

治中元車八日在午道中其口流涎者以
此藥一服日九月方破凡

卷之二

正德丁丑年夏月

右文苑為海內自刊信札初至為商此
下必以自刊信札初至為商此

正德丁丑年

袁江海書

海國書院

海子

袁江海

初氣不為之也

修身之要

...

一 心卷

一 体日

一 以集唐集卷之序

一 以集同身卷

仙有真象

久要者言 由世集卷之序
子叙之故也

孤溪化

但为身中少解子以月者可身以法多勤是书勤也

四日

以集乃时卷之序

一 体日 以集乃时卷之序

信恭院指沙志 乃彼等

贞相院指沙志

天真院指沙志 乃彼等

早以卷之序

右今期书勤卷之序

一 以集乃时卷之序

以集乃时卷之序 乃彼等

但在此之上乃彼等

以集乃时卷之序

白斗卷之序

右乃时卷之序 乃彼等

乃彼等

Handwritten text on the right side of the page, possibly a list or notes.

表紙

竹村居原

池戸中尾

田中務部

右子等 与副等

小太刀組

坂中隊

坂中隊

右子等 与副等

白井屋

Handwritten text in the middle section, possibly a list of names or titles.

白井屋

中務隊

Handwritten text in the lower middle section.

早

志世

白井屋

白井屋

Handwritten text on the left side of the page.

Handwritten text at the bottom left of the page.

一、...
二、...
三、...

中...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

二、...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一、...

不日 候

一、...

...

...

一、...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一、...

...

...

...

一 諸侯京師言是原日國書采也
為其書言言言言言言言言言言

之權利是

一 尾列口本二言七言七言七言七言
言言言言言言言言言言言言言言
為其書言言言言言言言言言言

多田酒更

好渡能

右之書原出代書諸國亦在之為先言言言言言言言言言言
以此為一每日此言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

一 將

一 禮禮信一箱

子成

涉邊大會書

一 皆田作大進板

涉五次
尾尾書

江五言

中何言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
涉此言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
涉日言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
涉終涉信一為涉家先中言言言言言言言言言言

十月四日

好渡能

謝安
謝安

謝安

右自... 謝安

書

謝安

書

謝安

謝安

謝安

謝安

謝安

謝安

謝安

謝安

右自... 謝安

謝安

謝安

石路有書院
中興學堂
中興學堂
中興學堂

中興

中興學堂

中興學堂

中興學堂

中興

中興學堂

中興

中興學堂

中興學堂

中興

中興學堂

中興學堂

中興學堂
中興學堂
中興學堂
中興學堂

一 凡此皆因

東山轉動... 來之... 神... 勿... 勿...

不... 年

一 凡此皆因

一 凡此皆因

右... 一... 一...

中... 一... 一...

六日抄

一 体

一 飯田谷谷目類表
十部公使致謝状

板橋忠造

一 同書在板橋忠造
以外公使致謝状

中村忠造

有由田用今公使

但文在板橋忠造

一 江戶公使致謝状

板橋忠造
江戶公使致謝状
板橋忠造
江戶公使致謝状

竹口世信

体日

一 史記之卷之九十九 卷之九十九

一 史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

史記之卷之九十九

後立合

...
...

麻久紹吉所

松井豊吉所

松井雄記

小具刻

竹村厚彦

坂野劉名

岡初彦所

右...
...
...
...
...
...

九段
...
...

右...
...
...
...
...

渡辺仁為

島田格彦

長岡一白

大友宗直

渡辺忠彦

吉原長次郎

吉原宗直

末

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

一月通話 任有言於法用社念中便

友通話 任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

一月通話 任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

一月通話 任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

一月通話 任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

任有言於法用社念中便

一 所
二 所

沖城給社様

二

高野原社様

金

右社に付夜更前施子の事以禮 行

お心懸り

一 右社に付夜更前施子の事以禮 行

付納

麻呂

右社に付夜更前施子の事以禮 行
中夜に付夜更前施子の事以禮 行

九口 蘇州府

一 休口

一 家園村

（此句...）

蘇州府

一 寶口

（此句...）

蘇州府

（此句...）

蘇州府

（此句...）

蘇州府

十日 晴

一 休日

一 田圃入草

田圃の草刈り

田圃の草刈り

春日 晴

山中の竹木を刈り
田圃の草刈り

春日 晴

十一日 晴 晴

一 例割出仕

柘植 晴

右様迄の事。此様。申。身。引。進。上。山。家。表。は。進。一。助。様。
申。為。表。押。後。此。申。物。付。出。成。許。致。名。成。今。五。願。書。
同。致。名。成。一。切。在。草。

以上 晴

私儀 從 之 也 者 大

許 儀 奉 奉 奉

世傳其法名其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

世傳其法名

世傳其法名其法名

悦後之形、此誠出採、
以好之、吾之、
以名、
了、
林、

此後之形、此誠出採、
以好之、吾之、
以名、
了、
林、

有之、
十日、
白、

白、

有之、
了、

一、
道、

此後之形、此誠出採、
以好之、吾之、
以名、
了、
林、

白、

有之、
了、
中、

日、

右記が書院月次講釈仕仰に違ふは致し難し
一 月人並

橋本 忠光

一 右記通記 仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

依田 長宗

同記

仁徳天皇御代中御事記

川上 重光

仁徳天皇御代中御事記

一 身社書目

大正 隆

右記が書院月次講釈仕仰に違ふは致し難し

仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

依田 長宗

右記が書院月次講釈仕仰に違ふは致し難し

仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

仁徳天皇御代中御事記

121

右一

右一

一

右一人

右一人

121

十二月晴折入山古

一 休日

以... (faded)

上... (faded)

行... (faded)

...

...

一 室約...

...

...

...

...

十二月日

一 休日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

<p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p>	<p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p>	<p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p> <p>山崎 山崎 山崎</p>
---	---	---

一 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

一 子福助...
西...
...

依日...

依日...

一 右...

一 九...

一 津...

一 津...

一 右...

一 九...

一 津...

白...

一 今...

白...

一

右...

一 津...

一 生...

一 津...

一 右...

...

右...

実名書

山代作

山代路

左田

一方

浦津若松少島島... 浦津若松少島島... 浦津若松少島島... 浦津若松少島島... 浦津若松少島島...

花打

一方

浦津

一方

一方

浦津

十一月 星洲小報

一 例刊出仕

一 許之平糧石上 查日法後成是初查是也

一 核管院候上 在日官查是也

一 因法用部局上 查是也
一 查日少款成上 查是也

此小姓以
少用入

事依此種制三有京報在部局
即知所而中其父能極難財查其醫所
查坊不伸方中為廉若否查極難財
皆遠而為在元子能事查其父也也

法井二部局

一 凡病進之者有倫行一有校又常以

思古如中守上右之也二夜三日病非除之沙形病也

作付之名沙形病科沙山虎也一城中為查是也

許代東之沙也病候也一知有是也中候也查是也

一 官 法形 候部

神如 原矣

許代東
法書總收

一 沙形病科 合式查是也
一 沙形病 治是也

但 沙形病也 何有是也 中候也 查是也

一 沙形病也 何有是也 中候也 查是也

一 及道自筆の跋

及道進んでより海の外に自ら又厚紙
思ふ物事口より道二夜三日病臥して
けり病室に在りては家中に在りては
道信の

一言 法華 跋

神妙 智文

右に道自筆の中より筆の最上なるもの

十月十日

四月廿日

化自筆

一 在りては道自筆の中より筆の最上なるもの

一 右に道自筆の中より筆の最上なるもの

一 右に道自筆の中より筆の最上なるもの

一 右に道自筆の中より筆の最上なるもの

一 右に道自筆の中より筆の最上なるもの

一 右に道自筆の中より筆の最上なるもの

右に道自筆の中より筆の最上なるもの

右に道自筆

右に道自筆の中より筆の最上なるもの

一 山崎台の別荘に於ける御用書
計帳の写本を呈上す
中村幸吉

一 山崎台

山崎台の別荘に於ける御用書
計帳の写本を呈上す
中村幸吉

一 山崎台の御用書

一 山崎台の御用書

一 山崎台の御用書

山崎台の御用書

山崎台の御用書
山崎台の御用書

山崎台の御用書

山崎台の御用書

山崎台の御用書

山崎台の御用書

西望

小酌二寸

中村多壽

田中德新

菊本隆就

杉井雄紀

松尾慎平

伴壽房

島井隆平

磯田茂壽

松原嘉平

廣村如白

楊文龍

佐田多壽

松本多壽

秋之無助

右中用給別在公員の在りて
附所中員の在りて

一 乃之通海之能也無之物也中後之由
口入之口及也

山行錄
空武直

空武直

如來知年之如帝一財術有久
勿子之乃財術也之名也指其
及下之乃如子然也之乃一財術
係之乃之通海也

空武直

空武直

空武直
空武直
空武直

十七日雨

一日

大意院跡沙志日有
經主寺
長國右仲

有分辨在氣中達

一日

日向
依田
長國右仲

十八日

一日

途法
仙石

途法
神明
仙石

途法
仙石

和名... 松本... 北條... 鎌倉...

增田...

休日

十九日

母病... 沖...

荒...

休日

休日

柳...

早川...

一 清用...
...
...

渡早...
...

一 考十四日...
...
...

女...
...

一 例...
...

...
...

渡...
...

一 在...
...

...
...
...

渡...
...

渡...
...

右院右書院月次簿紙之河内藤原氏

高平白河院平家隆家

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

淡井氏

一 北条氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

高平氏

一 月次

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

北条氏康之弟高平氏

高平氏

淡井氏

右院右書院月次簿紙之河内藤原氏

高平白河院平家隆家

1. 10/1/19

Dear Sir

I have the pleasure to inform you that your application for a grant of a license to sell and supply spirits in the district of ...

has been considered and approved by the Board of Directors and the Commission of the ...

and you are hereby notified that you may proceed to take possession of the ...

Yours faithfully

John Smith

Secretary

John Smith

James Watson & Co. Distillers

10, Market Street, Glasgow

10, Market Street, Glasgow

10, Market Street, Glasgow

10, Market Street, Glasgow

此紙係無用之紙
敬請收回
中

劉行 賜

大正七年四月
少

毛

長
但

口
毛

右
主
前

此
以

水

右
作
中

山形女子

當申年換見毛上位有^申法及園之覺

毛上位^申子物中^申上

毛位

百七石五斗六升九合

小田畑

但 百七石五斗七升

百七石四斗七合

百七石四斗七合

百七石四斗七合

小田畑

申

百七石四斗七合

百七石四斗七合

小田畑

右表當申年換見毛上位有^申法及園之覺

申

當申年換見毛上位有^申法及園之覺

毛上位^申子物中^申上

右表

百七石五斗六升九合

小田畑

但 百七石五斗七升

小田畑

百七石五斗七升

小田畑

百七石五斗七升

小田畑

百七石五斗七升

小田畑

百七石五斗七升

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

小田畑

一 采石
一 采拾石

二名村
四名
一名村
一名村

右名當年沙及...

申十月

世見

及到...

下
清林村

計...

取石...

右名...

申十月

去年...

先上...

右...

言...

言...

川...

但...

推...

外

言...

皆...

采...

任...

右...

申十月

多
尾
中
北
大
任
福
清

覽

皆在...

言二言八...

什...

内

言...

什...

言...

什...

布...

申十月

覽

不...

一...

什...

什...

右...

申十月

告

行...

告

信...

決二日曇 五枚の面

一 体白

一 少部同有連

右之云也此控之并皆云
又ふ云は道に其の位方以是
少三枚

右三云云は此は其の位方以是

少部同有連

野橋定指
関白意は是
麻久延所
少部同有連

廿三日 秋中の風物

一 物前より有り付るは出仕

一 風物有り出仕の合は
中連

一 右より出仕中
助け用當お勤

一 皇宮御内より出仕の合は
中連

一 所取取許産松平佐助御
少部同有連
少部同有連
少部同有連

仙舟御所

仙石在馬助

長岡石仲

後山守部

四知子行世

及之世及之世及之世及之世

賞

時各年級

言百世及之世及之世及之世

以取年九世及之世及之世及之世

也

言七世及之世及之世及之世

按各年級

以取年四世及之世及之世及之世

以言七世及之世及之世及之世

以取年四世及之世及之世及之世

申十月

此稿是稿
國口書局

門身大物分

按國書局

右教大書院及之世及之世及之世

及之世

想人數四萬人

矢數百六十四

中一八十四

以分又分

此稿

國口書局

一 二 一 二 一 二 一 二 一 二

招山勝寺
和名小寺
招田初物
吉田結之所
中村純吉郎
長谷原漢二郎
吉田七郎

招山勝寺

和名小寺
長谷原漢二郎

吉田七郎

右身之在九傷之及之
中道に有る也

為崇同此業以年服有
所為招年服有招以年
校有年及方以年服有

長谷原漢二郎

右道中及是也有人

和名小寺
代有招一

吉田七郎

右道之及是也年及之
年來之在力及是也一
招下年

書
世同甘苦

右一週目 行百方其後之學也

竹村學堂

世同甘

右一週目 行百方其後之學也

一 此世之百世也 行百方其後之學也
一 此世之百世也 行百方其後之學也

世同甘

世同甘

世同甘

世同甘

世同甘
竹村學堂

右一週目 行百方其後之學也

世同甘

世同甘

世同甘

世同甘

世同甘

捕方

山崎宗

右の所抄は御事支取の事と云ふ事
目録大の邊り之紙

他は所方目録に於て言ふ所
一 目録外石仲の事

廿六日

御利生仕

去正日迄の御事
私名守才の事
御事目録

信長

次月より御事目録中
御事目録
御事目録
御事目録

信長

他は所方目録に於て言ふ事

江山姓公法

妹友在種月...
歷作秋月...
...

一法文部

妹巧本...

...

按日...

右道...

...

...

...

...

...

...

...

...

十月廿七日

同廿八日

同廿九日

...

...

一 乃通也 古者百官之制 凡其人皆

其非社務

二夜三日

沙弥社科合式

沙弥社科合式

沙弥社科合式

凡病者有流外法人耶 凡通也 凡通也 凡通也

一 右三竹 沙弥社科合式

沙弥社科合式

一 乃通也 凡通也

凡病者有流外法人耶 凡通也 凡通也 凡通也

沙弥社科合式

沙弥社科合式

沙弥社科合式

沙弥社科合式

十月廿一日

仙石内家

沙弥社科合式

沙弥社科合式

一 乃通也 凡通也 凡通也 凡通也

沙弥社科合式

去冬以來
林城增田
地海江
三村
五
七
九

田中

以及
部

書

古

正

女六日 症候略多 方是

一 休日

止 症候

右按脉初起之 症候 亦似 痰饮 之 症 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

一 女 月 房 水 透 之 症 宜 用 五 苓 散

右 候 脉 亦 似 痰 饮

止 症候

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

右 候 脉 亦 似 痰 饮 宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

止 症候

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

宜 用 五 苓 散 亦 宜 用 苓 桂 术 甘 汤

女七日 症候

一 休日

夫人の口

一 体中如軍學能守之付有能也

一 田家學

一 及田家學

右の田家學は徳田田舎長との間に於て其の學問を
所傳す海内へ及ぶる也

龍船也

動善徳也

一 杉原長節

一 握胎

一 一 榎格也

一 境畧

一 及田家學

一 及田家學

右の田家學は徳田田舎長との間に於て其の學問を

所傳す海内へ及ぶる也

一 及田家學

一 及田家學

一 及

廿九日 性晴

一 昨日より先沙汰様へ有御礼是仕

沙汰様へ付

沙汰様へ御礼是仕

仙臺右衛門

御禮是仕

一 沙汰様より沙汰様へ有御礼是仕

沙汰様へ御礼是仕

沙汰様へ御礼是仕

但物

沙汰様へ御礼是仕

一 沙汰様一紙并起引云々御書右鳥物

御高札へ有御礼是仕

御高札へ有御礼是仕

長岡右伸

御高札へ有御礼是仕

一 沙汰様より沙汰様へ有御礼是仕

沙汰様へ御礼是仕

沙汰様へ御礼是仕

一 沙汰様より沙汰様へ有御礼是仕

沙汰様へ御礼是仕

仙臺右衛門

右是書台內稿步數計數以年
計所出美之
延平府志中多缺口
心合與平不...

漢口至臨汾
永井池
湯信
柳

右是書台內稿步數計數以年
計所出美之

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

一 延平府志中多缺口
心合與平不...

十月七

卷九

在公家之...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

海日

一 得中在軍中能受其功其德在

一 月日年

德之公也

一 在軍中受其功其德在

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 在軍中受其功其德在

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 德

一 当... ..

...

一 白... ..

...

...

一

...

一

...

...

平
湖
河
口
至
松

松
湖
口

出石藩

御用部屋日記

嘉永

一

年

上

月

出石町公民館蔵

嘉永元年申年

沖田守

日記 磯野英治

上

月 卷 七

胡日居

例刊出仕

一 許身事極言... 國... 卷... 卷...

一 樓... 樓...

但... 但...

一 因... 因...

其... 其...

以... 以... 同... 同...

一 此... 此...

今朝... 今朝...

一 家... 家...

先... 先... 何... 何...

一 此... 此...

先... 先... 其... 其...

此... 此...

一 此... 此...

一 友道 仁有以爲人之道也

但自君子之於世也其於人之道也

於其類也則誠之也

以道爲其類也則誠之也

仁之事

麻之身也

右月以自也則誠之也
仁之事也則誠之也

升之身也

一 友道 以道爲人之道也

於其類也則誠之也

六日 誠也則誠之也
仁之事也則誠之也

右月以自也則誠之也

仁之事

故野逸也

以道爲人

程以不文也則誠之也
仁之事也則誠之也

楊升身也

右月以自也則誠之也

一 留 念

六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日

一 可 在 月 運

六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日

元
地
象

一 第 二 人 運

六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日

元
地
象

一 有 進 出

六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日
六月廿七日

元
地
象

江戸長十郎 江戸の伝説
殿様 江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様
江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様

一 江戸殿様

江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様

江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様 江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

江戸殿様

口口口口

五河紀行

二日

休日

はなはな

高月法住所若日在也

三日九月十日

七日

六日八月十日

十日

中知少外史云牛山行
者中九行止云所止也

元元

少有人

中知中知云云之月後山後方在也
一、銀元二百元

三日

休日

山後山後

仙石石馬

一 山部年方直

明四同部所
法身也
子也

永井
厚

四日雨

一 体日

天
信

信

信

信

一 山部年方直
力
山部年方直

力

力

力

力

一 山部年方直
力
山部年方直
力
山部年方直
力

力

昔又銘於石... 如田... 勿... 遷... 中...

長岡... 仙...

一 仙...

二 仙... 仙...

仙... 仙...

二 仙...

一 仙...

仙... 仙... 仙...

仙... 仙...

仙... 仙... 仙...

仙... 仙...

仙... 仙... 仙...

仙... 仙...

仙... 仙... 仙...

二男社出山云々

山崎村云々

山崎村云々

山崎村云々

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

右社病身者病中能事致言部海山崎村
山崎村の事能知事不致勤彼言不致勤彼言
山崎村の事能知事不致勤彼言不致勤彼言

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

山崎村

高橋村の大家様

貴所へお礼を申し上げます

此度は誠にありがとうございました

高橋村

高橋村の大家様

御書

拝見いたしました

伊豆守

伊豆守

此度は誠にありがとうございました

伊豆守

伊豆守

伊豆守

右月書よりお礼申し上げます

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

伊豆守

一 日 人 也

左 之 通 中 外 之 文 化 交 流 也

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存
口 碑 不 以 而 存

一 日 人 也 行 者 之 心 也 也 也 也 也

口 碑 不 以 而 存

口 碑 不 以 而 存 行 者 之 心 也 也 也 也 也

口 碑 不 以 而 存

心口書

一 傳

一 於言及之於心以對言傳者之甚可敬

行家樂方之

志也

許先哲之知

心也

長國者

古月人

世故既甚之於心者為之

此類有於心

行家之於心者為心

心也

心及於心之知

志也

許先哲之知

松尾

七日 晴

一 休日

一 成吉思汗
以中土而下也

早川彦

一 出部 月夜

一 出部 月夜
月夜月夜月夜月夜
月夜月夜月夜月夜

出部月夜

一 出部 月夜

出部月夜月夜月夜月夜
出部月夜月夜月夜月夜
出部月夜月夜月夜月夜

出部月夜

出部月夜月夜月夜月夜

出部月夜

出部月夜月夜月夜月夜
出部月夜月夜月夜月夜
出部月夜月夜月夜月夜

出部月夜月夜月夜月夜
出部月夜月夜月夜月夜

八日 晴

一日

江邊散步
出亭

張地

一
古亭 怡然自得
中道
化在山水間人自得其法

化在山水間

九日 晴
朝晴好景

一日
休日

子休
山居
沙徑

化在山水間

十日雲

一 休目

法度
輪廓

化居志

一 左

法度

子

法度

法度

一 右

法度
法度
法度
法度

一 法度

法度

法度

法度

十一日 星期三

一 倒刺出仕

後深刺 有出仕之入右足
中逢

改野逸騎

一 右有助步用番相前

但右之出仕用人背肩中上段

仙石内家

當不日云云云云 右後身
廣善化車氣海軍則云云段

國朝書寫

橋井良卷

右被大書院月次傳教仕向一海河也云云

考六日月書止出於海河
中入人云 右月川後傳教仕向
此月終年云云云云

此月終年云云

右月川

此月終年云云

後月川

右被大書院月次傳教仕向一海河也云云
考六日月書止出於海河
中入人云 右月川後傳教仕向
此月終年云云云云

國朝書寫

名都廣府中國華商會

橫濱正金銀行

上海分行

天津分行

北京分行

江蘇分行

一、商人

昭陽

許廣

非

日

少

江蘇分行

二、商人

北

江蘇分行

蘇州

本

明

上海分行

天津分行

本

江蘇分行

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

一 戶通 任其流沙

肯利白牙

司念修身

如級

國原 Kanoo 等

日本醫學

任其流沙

任其流沙... 日本醫學... 任其流沙

一 戶通

肯利白牙

司念修身

日本醫學

任其流沙

一 戶通

任其流沙

任其流沙

任其流沙

任其流沙

任其流沙

任其流沙

任其流沙

日本醫學

任其流沙

一 山不姓沈也

山沈沈

山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也

一 山不姓沈也

山沈沈

山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也

一 山不姓沈也

山沈沈

山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也
山不姓沈也

十二月

一 休日

一 江分家出目廿二日分家出目廿二

取取取取

所取板立所取板立所取板立所取板立

出打兼出打兼出打兼出打兼

十一日 卷六

一 休日

以道版

海程舟舟舟

如知之也

或之舟舟舟

卷六

江蘇省署月二日公列便於事

啟者 冲國稅務司請撥經費以備稅務司辦事

等情中奉 督辦才以撥給經費以資辦理

行 查

一 冲國稅務司辦事經費

山化泰

一夜八時不谷適到署中 晤大署司官云 又撥之至川夜

清至馬尾在節這處以行夜 許月大七角也

一 冲國稅務司辦事經費 撥回銀兩之數 俾得充實以備稅務司辦事

一 七年前由嶺山運入之生油 月後日數亦多矣去年 月內一

于庚子年三月 月內馬尾之生油亦多矣 去年八月 月內一

一 冲國稅務司辦事經費 撥回銀兩之數 俾得充實以備稅務司辦事

山化泰

一 冲國稅務司辦事經費 撥回銀兩之數 俾得充實以備稅務司辦事

山化泰

右邊

作不...

長...

小...

...

...

...

右邊...

...

...

...

...

...

...

...

...

十日 美山寺

体口

以印唐德因次...
水泉於年...

信願身...
中坊...
信田...

山月...
山...
野...

十一日 相...

例...
...
...

...
...
...

一 乃通 此係何言 於中

以廣之昔人

但二者昔人謂其

依之回在印

一 乃通 此係何言 於中

以廣之昔人

以之解其以
以之解其以
以之解其以

以之解其以
以之解其以

一 乃通 此係何言 於中

以廣之昔人

亡母上平回 此係何言

為其 此係何言

細 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

其 此係何言

以之解其以

以之解其以

以之解其以

一 此世公也

池内春定

右左重仁且自味方以等公石築若成以成爲五節
修了之教書名云云也云云也

以上覽

私紙文の字書

此書想其字在云云云云下注加福等以取仕候に付候
石仕志村の字書と注候に 仁村志村の字書と注候に仕合
と書行の字書と注候に云云と書行の字書と注候に

多の字等取の字書と注候に云云と書行の字書と注候に

以上候

沖意想の字書と注候に

沖意免の字書と注候に云云と書行の字書と注候に

志願元以申年六月十九日

池内春定 下判

外紙及致二部取

一 此用入也

志願元以申年六月十九日
男也 沖意免の字書と注候に云云と書行の字書と注候に

山口松子日記

山口松子日記 山口松子日記

五月

十七日 土曜 下郷
十九日 土曜 下郷
二十日 土曜 下郷

一河松の里

入会月迄未出

山口松子日記

山口松子日記

山口松子日記

祝

祝

山口松子日記

右松子日記 山口松子日記
山口松子日記 山口松子日記
山口松子日記 山口松子日記
山口松子日記 山口松子日記
山口松子日記 山口松子日記

山口松子日記

山口松子日記

山口松子日記 山口松子日記

山口松子日記

你自是... 此後... 亦不

中...

中...

中...

嘉...

在...

沙...

可...

國...

名... 可... 今... 海...

1111

高き山に雲を巻く如く
上は福を降らし下は
下は災を降らし
此の如く年々此の如く
此の如く此の如く
此の如く此の如く

右の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く

此の如く此の如く

小波人

右の如く此の如く此の如く
此の如く此の如く

十一月廿一日

一 休會此級全職形之政府編制

職制

大政令

右 財政部之公同部長及書記官等

此 財政部之公同部長及書記官等

即 財政部

陸制

員 七人

全任多助

日 陸三人

上及相外

日 九人

上及相外

員 七人

水及海軍

右 陸軍部之公同部長

右 陸軍部之公同部長及書記官等

陸制

但 陸軍部之公同部長

員 八人

陸軍部

日 四人

中及相外

日 七人

中及相外

陸軍部

石中無回刃

一 江戶春言 官上 官三 官有 沙用 山王 有 日 入
表信

一 此 姓 氏 年

沖原 志 忠 德 義 氏 任
今日 移 姓 氏 年
山 王 氏 年

山 王 氏 年

十七日 禁

一 休 日

出 意 院 探 沙 氏 年
修 善 寺 氏 年
沖 原 志 忠 德 義 氏 年

仙 石 氏 年

賜 善 院 助 氏 年
寺 山 氏 年
山 王 氏 年
今日 移 姓 氏 年
山 王 氏 年

早 川 氏 年

一 景道 津守
明十八日 勅使
其後...

有月人

一 治部卿 藤原 實家

美奈方
清和天皇
御宇
出京

田中作
多所...

治部卿 藤原 實家

書後... 藤原... 仲方... 以...

淡井...

十一百五

一 休日

高津町

津島町

早川町

海新町

津島町

磯地町

高津町

高津町

津島町

高津町

以上費

私成代金

高津町

高津町

高津町

高津町

高津町

高津町

冲慈川溪友

冲故人之故不似其德公不若思公若思公若思公

望

嘉祐元年戊申年春月十日

冲慈川溪友

冲年春

冲中老友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

冲慈川溪友

十五日 善心成信

一 佛曰

教母免其有功德
如身中一事未成
書信自是善心成
此色色也今之世也

但自有身

一 聖心之出世也
心身

但自有身

一 口口教書月八日出行便教

聖心出世

此到聖心出世
此到東江山中

土有階 道中自覺心成也

聖心出世

何世福身

一 月三日 山中自覺心成也
山中自覺心成也
山中自覺心成也
山中自覺心成也
山中自覺心成也
山中自覺心成也

神田縣名

一 當今... 出火... 人...

一 龍火... 部系... 於...

一 右... 佐...

右... 佐...

一 河... 山... 右...

一 山... 河...

一 山... 河...

一 山... 河...

一 山... 河...

山月軒

信田藩の侯家書

江ノ切有るは之を解かす

下也其誠心は痛く有る也

大宅

坊日 胡姓

一 佛の如く小波の長祖洲東河柳子又の自利

出仕

一 坊日 天馬

一 河津平沙の成り得る法を以て其の如く人

山月軒

一 坊日 成る如く其の如く

出仕の如く其の如く

日修の如く其の如く

一 坊日 成る如く其の如く

山月軒

石柱

一 牧場

一 山月軒

山月軒

小波

右子所おありの山月軒は其の如く其の如く

平信
 門身 拾七人
 無信
 門身 一人
 日
 門身 拾貳人
 平信
 門身 拾七人
 無信
 門身 一人
 西利
 門身 拾貳人

右佛苑大一月計用銀兩...

乃後投
 系
 門身 六人
 抽手
 同
 系
 門身 拾拾人
 恐
 門身 六人
 志
 門身 拾貳人
 後
 門身 拾貳人
 任
 門身 拾貳人

右月以 但急...

明... 月...

一 出納

義... 門身...
 田中...
 香...

一 出納

母... 門身...
 何...

竹港乃乃...

竹港乃乃... 竹港乃乃...

多田...

女一日...

例刻...

左道...

高身...

名代...

意竹...

竹港乃乃... 竹港乃乃...

平部...

收地...

此...

名市在惠州府河源州府

右五元

山林之佳味依他家

溪山行

高松花塔寺在河源州府

高千石白岩山并黄也依

高千石

亡如年四月内为卷上卷

高千石

高千石白岩山并黄也依
高千石白岩山并黄也依
高千石白岩山并黄也依

盖从地府庸翁并因人高千石依
高千石白岩山并黄也依

高千石

高千石

高千石

右依是也其高千石并高千石
高千石白岩山并黄也依
高千石白岩山并黄也依

右... 仙... 教... 中... 人...
但有... 自... 故... 是... 矣

一 蜀人

去年... 冬... 之... 涉... 物... 涉... 至... 他... 所... 矣... 均

之... 好... 何... 何... 何... 何... 矣

一 弟... 名

以... 矣

一 大... 名

在... 矣

一 弟... 名

以... 矣

一 大... 名

同... 矣

一 董

一 弟... 名

以... 矣

一 大... 名

在... 矣

一 弟... 名

以... 矣

一 大... 名

同... 矣

右... 所... 均

弟... 名

以... 矣

右... 所... 均

弟... 名

以... 矣

弟... 名

附子丸

一 卷之石

江户初七

二 子白母

但此合子物... 子物... 子物...

一 大...

但此合子物... 子物... 子物...

江户初七

一 山...

年... 月... 日...

...

授... 校...

...

...

...

...

...

一 山...

...

...

一 休...

休... 日...

父... 母... 弟... 兄...

...

...

...

...

...

為國之憂者三為國之憂者三為國之憂者三

女三日

一 体自ら皆 禮法之守なり 何事に

新言
門方九

白田氏

右 法禮法之守なり 何事に 一 門方九

法 月節法也。 何事に 何事に 何事に

月 言外也。 何事に 何事に 何事に

正 禮節也。 何事に 何事に 何事に

白田氏

本 月節法也。 何事に 何事に 何事に

正 禮節也。 何事に 何事に 何事に

一 能月九

一 能月九
何事に 何事に 何事に

上原市野尾

世間自性

一 佛曰

實相是極

法是白身

定是年一

所代香

早川自性

女曰性

一 例到性

一 以用入達

書法

老年之氣血行此年氣衰

形一也形於血中下

格列如心之氣衰者知好

如血衰矣

金言本集下

右一箇一箇一箇一箇一箇一箇

以字法

以字法

以字法

一 山行法苑珠林卷之三

法苑珠林

法苑珠林

法苑珠林

法苑珠林卷之三

法苑珠林

法苑珠林卷之三

法苑珠林

法苑珠林卷之三

一 今日 法苑珠林卷之三

法苑珠林卷之三

一 法苑珠林卷之三

法苑珠林卷之三

一 法苑珠林卷之三

法苑珠林卷之三

法苑珠林卷之三

法苑珠林

法苑珠林卷之三

一 冲冠而怒又有徐原之...
一 冲冠而怒又有徐原之...
一 冲冠而怒又有徐原之...
一 冲冠而怒又有徐原之...
一 冲冠而怒又有徐原之...

一 冲冠而怒又有徐原之...
一 冲冠而怒又有徐原之...

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

冲冠而怒

既成

日九

封

日十

封

一 有社

封

右法... 封

封

封

一 有社

封

封

一 有社

封

封

封

一 有社

封

山部今成之...
川信收者言

山部今成之...
河津海公書

右... 何... 何...
何... 何... 何...

川信收

川信收...
何... 何... 何...

河津海公書

山部今成之...

山部今成之...
河津海公書

山部今成之...
何... 何... 何...
何... 何... 何...

山部今成之...
何... 何... 何...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...

山部今成之...
何... 何... 何...
何... 何... 何...

山部今成之...
河津海公書

志有痛那...
 行...
 ...
 ...
 ...

六六

体日

...
 ...

市通...

...

...
 ...

女七日 晴

一 休日

五五廿
以道勝心

仙居

一 五日

初五日 晴

仙居

正陽春社
中元節
少康

六日 晴

七日 晴

八日 晴
仙居

仙居

九日 晴
仙居

一 傳

廿九日

一 休

晦日

江邊作
婦傳

長岡右伴

一 守書
極極古法 沖其原色 沖其原色 沖其原色
沖其原色 沖其原色 沖其原色 沖其原色
沖其原色 沖其原色 沖其原色 沖其原色

一 守書
沖其原色 沖其原色 沖其原色 沖其原色

沖其原色 沖其原色 沖其原色 沖其原色

沖其原色 沖其原色 沖其原色 沖其原色

仁井十卷

一 前生一

件件如文
为及知是令及府
信信

心山作本

一 四結神心氣血理學

一 抑佛治之經學書信 神改

一 今日定日... 經學書信... 神改

一 用八重

一 名名解海... 經學
一 未十五日月... 經學
一 增國信... 經學

樣法... 經學

一 聖佛... 經學
一 在... 經學
一 日... 經學

依田... 經學

一 在... 經學
一 在... 經學
一 在... 經學

一 少... 經學
一 少... 經學
一 少... 經學

一 左... 經學

一 經學

一 經學
一 經學
一 經學

一 法... 經學
一 法... 經學
一 法... 經學

一 漢語門之七之末

六之七番 沖之七番

沖之七番 城在海上之島 爲國甲斐守

沖之七番 沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

右 信之七番 守之七番

中村守

島田守

小島守

一 沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

沖之七番 守之七番

島田守

島田守

島田守

一 留法生

冲用留法生和书局在法通法生书局

先遣留法生之私愿，似宜由法通法生书局
编入之，因中法书局法通法生书局书捐簿
之厚而法通法生书局书捐簿之厚也

一 高六六四号法通法生书局书捐簿

右通法生书局书捐簿一册
十月十日

一 左一五二四号法通法生书局

右通法生书局书捐簿一册
十月十日

保法生书局书捐簿一册
右一五二四号法通法生书局书捐簿

十月十日

法通法生

留法生

日六

法通法生
法通法生

法通法生

法通法生
法通法生

出石藩

御用部屋日記

嘉永

一

年

十二月

月

出石町公民館蔵

嘉永元年戊申年

御用

日記 早川屋

十二月小参

中清

喧喧痴痴

少年志氣
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中
如海子中

左側
右側

而山
松林

早則
早則
早則
早則
早則
早則
早則
早則
早則
早則

朔日 大書

一 例行先住

一 沖光寺極方ノ後任院持ノ當院ニ在リテ長年ニ在リテ

一 因少用院ニ在リ

一 寺中ニ在リ

一 山小姓
一 用人

一 今此 沖城ノ事ニ在リテ此ノ事ニ在リテ此ノ事ニ在リテ

一 先中ノ山寺中ノ人ノ修職言ヒテ此ノ事ニ在リテ

一 此ノ事ニ在リテ

一 山後聖者大ノ山ノ中ニ在リテ此ノ事ニ在リテ

中甚古書ニ在リ

一 山岡有基

忘中ノ事ニ在リテ此ノ事ニ在リテ
仕リテ此ノ事ニ在リテ

中甚古書

一 山岡有基

勢利ノ事ニ在リテ

山岡有基

山岡有基

山岡有基

右記

山後聖者

川上聖者

大原聖者

古年心 似海无边

一 留 / 留

昔年心似海无边

一 留年心似海无边

一 留年心似海无边

一 留年心似海无边

一 留年心似海无边

昔年心似海无边

一 留 / 留

昔年心似海无边

昔年心似海无边

一 留 / 留

昔年心似海无边

昔年心似海无边

昔年心似海无边

一 留 / 留

昔年心似海无边

昔年心似海无边

山崎子以正

山收續修自序每以修史為一事業

二日 七日 十日

四日 八日 十一日

杉本雅之史

右來而年統

大神宮武年二正遷之末統

邦若神武天皇造長之造外名曰出有之由新統先統

武初中之右神代勤信之統能貴多部及日也

敏振子治法上篇之物力及五萬石之富是法也

十石之富及神書者也一者二竹山在神書一及在神書

山和人一十石之富神書也

大皇武年

山收續修

右指門一七石之富神書也

中人但有二石之富神書也

山收續修

山收續修

山收續修

山收續修

二日 晴

一休 日

一 宿 日

中 日 晴

中 日 晴

為 日 晴

為 日 晴

為 日 晴

為 日 晴

為 日 晴

二日 晴

一 休 日

以 進 日

以 進 日

以 進 日

一 休 日

上海 晴

古 晴

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

李心远

病後氣力未復
正氣未復
精神未復
氣血未復

山陰李心远

李心远

何如

李心远

李心远

李心远

（首）和氣
云及...

（首）和氣
大業中
麻目...

右...

清... 和氣...

但... 和氣... 中...

（首）和氣

和氣...

和氣...

和氣...

和氣...

和氣...

和氣...

和氣...

和氣...

同志會 心子

一 口

高申年波的山玉在比市史會

平均之元

冒 一 牙

一 牙

波心

日九

牙

一 牙

七

一 牙

牙

波

一 牙

波

右

牙

波

牙

牙

一 牙

波

牙

世

一 牙

波

世

一以用人至

唐虞之中外同也

以善其女信也

亦人好信也

以善其女信也

亦人好信也

以善其女信也

亦人好信也

以善其女信也

亦人好信也

以善其女信也

亦人好信也

以善其女信也

一曰

一休曰

何事之在也

何事之在也

左道之在也

一曰

何事之在也

何事之在也

大夏少年

何事之在也

中村

七日

一休日

早幼急病
或急病急

普濟

八日

一休日

張幼急病
或急病急

普濟

九日晴

一 休日

丁未年如去去年今日晴
出產男多於去年日陰非有月
取此逸語也

五川原在

十日 快晴

一 休日

十一日 晴

一 休朝出仕

櫻井良記

少月経経海程仕行其不御也

一 休月入金

高七日入退取酒心人細書身了以枕
一 休也道(其子)也也也也也也也也也也也也

後編 亂世文苑

子集卷之

卷之

此卷之序
此卷之序
此卷之序
此卷之序
此卷之序

貴州分府序

貴州分府序

竹村詩集

右通 竹村詩集

此卷之序

此卷之序

此卷之序

右通 竹村詩集

十二日 收據

一 休日

涉以彼方計則可有

三層樓

計以多者自學音自公

此中亦在在紙之印法

彼方執事

一 涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

一 涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

十二日 收據

一 休日

一 涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

涉以彼方計則可有

一 津島神社 津島神社 信守寺 津島神社

口津島神社 津島神社 信守寺

殿原 津島神社 津島神社 信守寺

一 津島神社 津島神社 信守寺

津島神社

細川 津島神社

尾田 津島神社

秋月 津島神社

右 津島神社 津島神社 信守寺

沙田主人愛其山泉乃在田岸置一石
 碑高丈餘其碑上刻以泉之名其碑之
 上刻有九字 所出之河石極細極滑 所出之水
 大村徑徑如石 所出之水極清極白 所出之水
 極色利安房古碑也 所出之水極清極白
 所出之水極清極白
 一石之通 泉源之石
 此人所作碑也
 此碑之石極
 此碑之石極

此人所作碑也
 此碑之石極
 此碑之石極

水以所

一石之通 泉源之石
 所出之水極清極白
 所出之水極清極白

一石之通 泉源之石
 所出之水極清極白
 所出之水極清極白

一石之通 泉源之石
 所出之水極清極白
 所出之水極清極白

一石之通 泉源之石
 所出之水極清極白
 所出之水極清極白

此乃不進之於春舟川橋一濟出馬法在常
盤橋山後之山 因六時前亦川至其水之河堤
中々幸橋法門口河沿其在山等 河門也

石虎
白升儀馬

右射棚大書院於河堤橋為

河門

河堤之河也 河堤之河在河堤在通堂
在

石守
白升儀馬

河本新馬

一 白升儀馬

右河五洲之

道雲院

石田末

河門

右於國不射棚

河堤有之 右河五洲之通堂亦在河堤

河新強藏

石田末

石田末

左邊日... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

右邊... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

...
似有月... 似有月...

... 似有月... 似有月...
似有月... 似有月...

一 昔の
少産の遺蹟

以見虎之節

一 右の遺蹟は自然の石

河田の西

右に 所産の遺蹟とて自然の石の遺蹟と云ふ

一 右の所産の遺蹟は自然の石の遺蹟と云ふ

一 右の所産の遺蹟は自然の石の遺蹟と云ふ

一 右の所産の遺蹟は自然の石の遺蹟と云ふ

一 昔の

所産の遺蹟

田中氏の

一 昔の

田中氏の

一 昔の

一 昔の

田中氏の

一 昔の

十月十日 敬啟者

一 每日

一 凡有...

此項... 凡有... 敬啟者

十月十日

五...

...

一 凡有...

此項... 凡有... 敬啟者

永井...

文曰 此數公名其人亦類

例刻其法

許其東海石孟法其院檢其書其美之年

何志銘其德其美之年

銘其德其美之年

一曰其德其美之年

其德其美之年

後世進法
以出其人
因修其

道其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

其德其美之年

海王堂の子牛行燈
少くも如く...
...
...
...

牛川...

一以用人進

服痛の身月...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

田中...

板垣...

右病の...
...
...

...
...
...

口上見

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...
許應龍在行...

嘉慶元年十一月十五日

松桂恩定

他在內...
他在內...
他在內...

他在內...
他在內...
他在內...
他在內...
他在內...

嘉慶元年十一月十五日

松桂恩定

他在內...
他在內...
他在內...
他在內...
他在內...

法華經
卷之八

有身人共一曰佛列者

法華經卷之八
有身人共一曰佛列者
法華經卷之八

法華經卷之八
有身人共一曰佛列者
法華經卷之八

法華經
卷之八

十六日

一休日

十七日折小登

一休日

去意流極

法志日身

修立身日

折今物折初公限中道

一休日

折今物

折今物

折今物折初公限中道

十八日

一 休日

一 山行日記

増田山行日記
湯尾村
中尾山
山行日記

山行日記

十九日

一 休日

山行日記
山行日記

山行日記

山行日記
山行日記
山行日記

山行日記

女口管

一 体口

津用父母其日管

也口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口

法林信

吉尔中家新

一 以初多外延

口口口口口口口口

口口口口口口

口口口口

又三可

口口口口

但中口口口口口口口口

口口口口口口口口

女一日口口口口

得利出仕

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口口口口口口口

口口

法林信

吉尔中家新

一 方寸通世性

有同人

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也 汝若能悟此理 则一切烦恼皆除 且能入涅槃境界

十二月廿五日

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也

石中子念

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也

汝若能悟此理 则一切烦恼皆除 且能入涅槃境界

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也

石中子念

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也 汝若能悟此理 则一切烦恼皆除 且能入涅槃境界

一 方寸通世性 此言心之微妙 非文字所能形容 亦非语言所能尽也 汝若能悟此理 则一切烦恼皆除 且能入涅槃境界

出精五部七線道

七部五部三部右通書 仁行才

出山姓名

出山姓名 出山人 吉本三郎

但此部各段多三分或五分及七部各段
丁度生員出山人也

石通書 仁行才於法用部通書

出山姓 仁行才

中徳の在部紙を以て

出山姓 仁行才

出山姓 仁行才

出山姓 仁行才

出山姓 仁行才

出山姓

仁行才

右古三也 仁行才 仁行才

仁行才 仁行才 仁行才

男女来、西平一年中、百百想町と云ふ所ハ

志と文任高、物力仕立、十部身付、何年

行の志と云、行行言、何年、何年、何年

行行言、何年、何年、何年

出山姓 仁行才

出山姓 仁行才

出山姓

右主事年涉了竟... 正法... 楊枝... 取...

... 切... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

少主人

... 取... 取... 取...

右... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

右... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

右... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

... 取... 取... 取...

名成門外回里塔之厚之古塔成其後也
思即交修之修之古塔塔下天壽寺塔也
厚之古塔塔下天壽寺塔也

化塔之古塔塔也

同
此塔或為武母也

同
此塔或為武母也

同
此塔或為武母也

古塔以十餘人
化塔之古塔塔也

同
此塔或為武母也

同
此塔或為武母也

此姓以希
以月人
修屋仲律

右月以十元

但此、以月海

以月以

以月以

合式百

右月以十元
但此、以月海

以月以
以月以

以月以
以月以

右月以
但此、以月海

以月以
以月以

右月以

以月以
以月以

以月以
以月以

右月以

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

古

一

古

休日

廿三日

音

休日

廿四日

音

所用之紙

中國

紙

音

音

共六日

一 例列出生

一 口用人生

涉解稿法若何通令自首涉海

一 口用人生

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

卜中口系

一 口用人生

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

和同海公本
如回海同

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

涉解稿法若何通令自首涉海

中地地系
地回海同

涉解稿法若何通令自首涉海

南方的海洋文明
是中國文明的起點

史學研究
周自齊

一 浙江的史學研究
是中國史學研究的重要

周自齊

但浙江的史學研究
是中國史學研究的重要

一 浙江的史學研究

浙江的史學研究是中國史學研究的重要

浙江的史學研究是中國史學研究的重要

浙江的史學研究是中國史學研究的重要

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

一 浙江的史學研究

浙江的史學研究是中國史學研究的重要

浙江的史學研究

浙江的史學研究

浙江的史學研究

古語云：業之成敗，在乎
至正。社稷之存亡，在乎
神靈之靈否。夫大義所在，
抱一死生之心，又何足貴乎？

一 社稷之存亡，在乎神靈之靈否。
此是名向，言中統也。固自有統

一 學問之要

漢書云：學而
無術，則不能
以自衛也。

此語極其切當，
不可不察也。
下句云：學而無術，則不能以自衛也。

此語極其切當，
不可不察也。
學而無術，則不能以自衛也。

古語云：業之成敗，在乎至正。
社稷之存亡，在乎神靈之靈否。
夫大義所在，抱一死生之心，
又何足貴乎？

一 望其列後方清則神三時已過
抄過之

大六日 音海美以臨

一 例別書

一 痛極身
今已此矣

一 痛極身
清光陰今

一 月通在 似此言深可

一 常之難也
正如其言
存之必難
同其言

一 必其人

清水名唐

同科百三十三卷

信及仲津

市道經海石一海

山登西岸

龍山寺(通)

古寺出處

水坂入東岸

龍山寺(通)

平田遠處

右山

山名(龍山寺)龍山寺

山名(龍山寺)龍山寺
山名(龍山寺)龍山寺
山名(龍山寺)龍山寺

八

山名(龍山寺)龍山寺

女七日 抄書

例到生仕

同科百三十三卷

仙石内家

山名(龍山寺)龍山寺

同中(山名)

山名(龍山寺)龍山寺

山名(龍山寺)龍山寺

一 号 陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

下田 陸軍大臣

石 陸軍大臣

菅野直

菅野直

一 河内 陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

陸軍大臣 菅野直 陸軍大臣

一月 吉和信是... 月高 吉田吉之丞

二月 羽新... 久保左衛門

右記の記方... 但此等は... 以後中御前...

一 徳川... 徳川... 徳川...

徳川... 徳川... 徳川...

徳川... 徳川... 徳川...

三月 徳川...

廿八日 書

一 歳言、付六生の福徳を結ぶ事

一 凡の徳を以て今日迄
生は有るを以て也

化育の家

一 沖見手福言に歳言は夜成志を著す事
格を以て成る事也

一 同徳を以て成る事
歳言は夜成事也

成る事

一 ちの通口

願書

白雲の書

任事成る事也

成る事

此の事も成る事也

成る事

この事也

右の通天係九年十法並に修行又
此の事也。此の事也。此の事也。此の事也。
法向中人の中。右等徳也。此の事也。此の事也。
此の事也。此の事也。此の事也。此の事也。
右の事也。此の事也。此の事也。此の事也。

十二月五日

子以在在

出同有年

- 一 涉山書院之るる山門外に山門入内所書有
- 山門外に山門入内所書有
- 此山書院に山門外に山門入内所書有
- 一 文書院に山門外に山門入内所書有
- 右門外に山門外に山門入内所書有
- 一 右門外に山門外に山門入内所書有

元日

又日山門外

但才入内所書有

右門外に山門外に山門入内所書有

十二月五日

一 右門外に山門外に山門入内所書有

丁亥

山門外に山門外に山門入内所書有

山門外に山門外に山門入内所書有

右代り

山門外に山門外に山門入内所書有

出所抄本可表定後分
福元 竹久

右代り

福元 竹久

右代り

松田新介

渡辺守直

多田勘助

高田隆三郎

一 出所抄本可表定後分

福元 竹久

福元 竹久

一 出所抄本可表定後分

力多

中

一 出所抄本可表定後分

出所抄本可表定後分

申年大徳元

一 出所抄本可表定後分

一 出所抄本可表定後分

一 出所抄本可表定後分

内

申年大徳元
出所抄本可表定後分
福元 竹久



六拾壹年正月

亥

六拾貳年正月

子

六拾參年正月

丑

年

六拾肆年正月

寅

卯

六拾伍年正月

辰

六拾陸年正月

巳

年

庚

一
休
日

休
日
休
日